

ボランティア体験プログラム2025

はじめての一步が誰かの明日をつくる！

活動報告集

◆実施期間：令和7年7月～令和7年11月◆

実施社協：35社協

*令和7年度事業では、当初38社協が実施を予定していましたが、参加申込みが無かった3社協を除く35社協の報告書をまとめています。

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
令和8年1月作成

【目次】

1	豊中市	P1～2
2	池田市	P3～4
3	吹田市	P5～6
4	高槻市	P7～8
5	茨木市	P9～10
6	箕面市	P11～12
7	摂津市	P13～14
8	島本町	P15～16
9	豊能町	P17～18
10	守口市	P19～20
11	枚方市	P21～22
12	寝屋川市	P23～24
13	大東市	P25～26
14	門真市	P27～28
15	四條畷市	P29～30
16	交野市	P31～32
17	東大阪市	P33～34
18	八尾市	P35～36
19	富田林市	P37～38
20	河内長野市	P39～40
21	松原市	P41～42
22	羽曳野市	P43～44
23	藤井寺市	P45～46
24	河南町	P47～48
25	太子町	P49～50
26	岸和田市	P51～52
27	泉大津市	P53～54
28	泉佐野市	P55～56
29	和泉市	P57～58
30	高石市	P59～60
31	泉南市	P61～62
32	阪南市	P63～64
33	忠岡町	P65～66
34	熊取町	P67～68
35	岬町	P69～70

【基本情報】

事業名	豊中市地域福祉協議会		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年8月1日～令和7年9月19日	延べ参加人数	77人

【事業概要】

●プログラム内容 ・保育園で一日先生体験 ・幼稚園で園児たちと遊んだり、生活の補助 ・こども食堂で食事の調理と提供、こどもたちの見守り ・障害者作業所で内職作業や余暇活動のお手伝い ・高齢者施設で夏祭りのお手伝い ・高齢者施設の地域交流スペースで入所者とのコミュニケーションとこどもの居場所の見守り ・高齢者施設でレクリエーションや介護ケアのお手伝い ・野菜の収穫、水やり、草引きなどのお手伝い ・地域の体操（ぐんぐん元気塾）のお手伝い ・地域の子育てサロンのお手伝い		●協力団体 おひさま保育園、刀根山こころ保育園、追手門学院幼稚園、アリス千里、居場所づくりプロジェクト「ループ」、クレヨン、永寿園とよなか、いきいき東豊中、葵岡町デイサービスセンター、ベリグッス、豊中あぐり、北緑丘校区福祉委員会、少路校区福祉委員会、大池地区社会福祉協議会
●目的・ねらい ボランティアを始めるきっかけをつくり、ボランティア活動を身近に感じてもらう。誰もが気軽に体験プログラムに参加し、地域のさまざまな方々とのふれあいの中から「ともに生きる」豊かな心を学ぶ。自分が暮らす地域の福祉活動や福祉施設への理解を深める。		●実施場所（名称） おひさま保育園、刀根山こころ保育園、追手門学院幼稚園、アリス千里、居場所づくりプロジェクト「ループ」、クレヨン、永寿園とよなか、いきいき東豊中、葵岡町デイサービスセンター、豊中あぐり、北緑丘校区福祉委員会、少路校区福祉委員会、大池地区社会福祉協議会
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 6月…プログラム協力団体を募集 7月…ボランティア受け入れ施設研修会を開催（動画での視聴も可能とする） …チラシ・プログラム一覧表を作成、配布 随時調整 9月…アンケート集計、振り返りをおこなう		●事業規模（予算：4万円） 【内訳】 助成金 4万円 広報費、ボランティア活動保険代、通信費等 ●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生・中学生・高校生・専門学生・大学生（短大生）・一般 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☐ 広報誌（ ） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 多くの方に関心を持ってもらい、気軽に参加してもらえるよう、多様なプログラムを設定しました。また、システムを導入して体験プログラムの情報検索から申込み、活動、アンケート回答まで、一連の手続きをスムーズにできるようにしました。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして システム導入、アプリを使って体験プログラムに参加できるようにしました。		
*これまでの体プロと異なる工夫 子ども食堂ネットワークにもボランティア受入れの協力を依頼しました。		
●ボランティア保険	☒ ボランティア活動（ ）保険	☒ 団体が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

地元で気軽にボランティア体験！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ このボランティアで障害について考えるきっかけになった。いっぱい話せて楽しかったです！ ＊ 普段は喋る機会のない年齢の方々とたくさんお話しできて楽しかったです。 ＊ 今回保育のボランティアに行ったがすごく楽しく、秋、冬にでもまた実施して欲しいと思いました。 ＊ やはり近所の人との関わりが身近で大切な助けになると感じました。 ＊ 地域の行事やボランティア募集がもっと身近に感じられると嬉しいです。
●協力団体の声（抜粋） ＊ 近隣に住む、若く、感じの良い子が手伝ってくれて非常に嬉しかった。 ＊ 利用者がボランティアとの交流を楽しんでおられた。ボランティアに来てもらってよかった。
●取り組みの成果、効果 活動先での出会いやコミュニケーションを楽しみながら、市内の事業所や地域の活動団体について知ってもらうことができました。アンケートでは今後もボランティア活動をやってみたいという意見が多く、一度体験することで活動意欲が高まったことが伺えました。引き続き、参加者には社協のイベント等の案内をしていく予定です。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 今年度は中高生の参加が多くみられ（特に私立学校）、自分たちの暮らすまちで何かやってみたいというニーズの高さを感じました。学生がボランティア活動に参加しやすくなるように、体制を整えていきたいと思います。一方で、一般の方からの申込が少なかったため、次年度はより幅広い年齢の方々に参加してもらえるよう工夫していきたいです。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



← 子育てサロン



子ども食堂 →



↑ プログラム チラシ

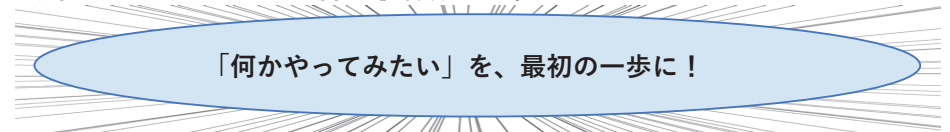
【基本情報】

事業名	夏のボランティア体験プログラム		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☐ 児童 ☐ 保育 ☐ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年8月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	15人

【事業概要】

●プログラム内容 池田市内の福祉施設で、ボランティア活動を体験する。		●協力団体 ・池田市立くすのき学園（障害サービス事業所） ・こすもす（生活介護） ・ほほえみの園（特別養護老人ホーム） ・デイサービス季節めぐり（通所介護）	
・ 高齢者施設でのお話相手、活動補助 ・ 障害者施設での活動補助		●実施場所（名称） ・池田市立くすのき学園（障害サービス事業所） ・こすもす（生活介護） ・ほほえみの園（特別養護老人ホーム） ・デイサービス季節めぐり（通所介護）	
●目的・ねらい ボランティア活動に興味がある人々に、活動の機会を提供することで、他者や社会への関心を持ち、福祉への理解を深めることを目的とする。ボランティア活動へのきっかけづくりを通じて、各施設や地域におけるボランティアの継続や定着、市民の福祉教育に繋がることを目指す。		●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】 収入：助成金 4万円 支出：ボランティア活動保険 2万5千円 印刷費（カラーペーパー等）1万5千円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月 市内福祉施設に協力依頼 6月 協力施設（4施設）決定 7月 広報活動（市内学校・公共施設にチラシ送付、HP・FB掲載） 8月 広報活動（社協広報誌に掲載、V希望者や講座受講生へ案内） 8～9月 ボランティア体験プログラム実施		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ボランティアに興味のある方 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（いけだの社協8月号） ☐ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） 小学生から高齢の方まで参加が可能。保護者や友人との参加也大歓迎。 この体験プログラムを通して、福祉施設の現場を見て学ぶことができる。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 社協独自のチラシのレイアウトやフォントに少し変更を加え、イラストも用いてより見やすいように作成。			
*これまでの体プロと異なる工夫 昨年度と同様（受付方法の多様化：Googleフォーム、メール、FAX、窓口、電話など）			
●ボランティア保険	（ ボランティア活動 ）保険	■ 社協が加入	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 実際に入所者の方とお話が出来たので良かった。説明も丁寧だった。 ＊ 自然体で活動ができる雰囲気よかった。 ＊ 喋ったりお手伝いができて楽しかった。 ＊ 利用者や職員の方々が優しく教えてくださった。
●協力団体の声（抜粋） ＊ 入所者の方が喜ばれるため、ぜひ来年度も継続したい。活動内容も増やしたい。 ＊ 若い世代の方に来ていただき、職員・利用者ともに有意義な時間を過ごすことが出来た。
●取り組みの成果、効果 今年度は、高齢と障害の2分野の施設に協力いただき、小学生の親子参加や大人の方など、幅広い世代からの参加が得られた。実人数としては昨年度を少し下回るも、活動日数は増加。池田市内だけでなく他市からの活動希望者の受入についても、協力施設と相談しながら柔軟に対応した。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 昨年度より、受付方法にGoogleフォームを追加したことで、申込者の情報確認や集約がスムーズであった。また、このプログラムを通して、施設自体とコミュニケーションを取る良い機会にもなった。反省点としては、学校へのPR力が弱く、中高生の申し込みが少なかったことである。来年度はチラシの郵送だけでなく直接学校へ出向くなど、広報活動により一層力を入れていきたい。また、受入側の施設職員に対しても、ボランティアについての理解を深めてもらえるよう、事前説明をしっかりと行いたいと思う。
【活動風景】 各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



高齢者施設で、喫茶のお手伝いをする小学生。お母さんも一緒に参加しました。



入所さんの髪をドライヤーで乾かす高校生。指導を受けながら丁寧に行います。

【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☒ 地域福祉 ☒ その他（コミュニティサロン）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	25人

【事業概要】

●プログラム内容 ・ひとり暮らしの高齢者を対象にした昼食会お手伝いや地域のボランティアさん、高齢者との交流。 ・誰でも気軽に参加できるボランティア活動（コミュニティサロン）で、使用済み切手の整理やプルタブの選別。 ・障がい者地域活動支援センターで、障がいのある方と交流をしたり、運営のお手伝いなど。 ・センター登録グループの活動に参加。 ・高齢者施設で実施するイベントのお手伝いなど。 ・高齢者施設での日常的な活動のサポート、交流など。 ・認定こども園での子どもとの交流など。		●協力団体 ・地区福祉委員会 ・吹田市ボランティアセンター登録団体 ・施設連絡会 ・地域活動支援センター ・放課後スペース
●目的・ねらい ・若い世代と地域（社会）が接点を持つ機会をつくり、若者も一人の地域社会の一員、担い手として力を発揮し、活力ある地域（社会）をいっ所に築いていく。		●実施場所（名称） ・地区公民館 ・認定こども園 ・吹田市立総合福祉会館 ・介護老人保健施設、特別養護老人ホーム ・就労継続支援B型、地域活動支援センター
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：チラシの作成。 地区福祉委員会委員長会議、吹田市施設連絡会幹事会にて当プログラムの協力を依頼する。その他の団体にも同様。 協力依頼をもとにプログラム作成、ガイドライン作成を行った。 6月：市内の高校、大学、専門学校、近隣の学校に対しチラシの配布を行った。また普段からつながりのある、大学ゼミの教授にも周知を行った。 7月：申し込みのあった大学生へ随時「ガイドライン」を送付しオリエンテーションを行う。活動終了後はアンケートにて感想などを聞き取る。 11月：全プログラム終了。		●事業規模 （予算： 3 万円） 【内訳】 ・助成金 3万円
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：チラシの作成。 地区福祉委員会委員長会議、吹田市施設連絡会幹事会にて当プログラムの協力を依頼する。その他の団体にも同様。 協力依頼をもとにプログラム作成、ガイドライン作成を行った。 6月：市内の高校、大学、専門学校、近隣の学校に対しチラシの配布を行った。また普段からつながりのある、大学ゼミの教授にも周知を行った。 7月：申し込みのあった大学生へ随時「ガイドライン」を送付しオリエンテーションを行う。活動終了後はアンケートにて感想などを聞き取る。 11月：全プログラム終了。		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ・高校生 ・大学生 ・専門学生 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（市報すいた、吹田市社協だより） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 問い合わせがあった際に、本人の意思ややってみたく感じた背景など丁寧に聞き取りを行った。ボランティア体験プログラム以外にも活躍の機会を創出することもセンターとしての役割ととらえ、プログラムにとらわれないコーディネート心を心がけた。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして ・HP上にEコマを活用した特設サイトを開設した。プログラムの一覧や体験するうえでの注意点など記載することが出来た。またInstagramでの周知を行うことで、学生にも目に触れる機会を創出した。 *これまでの体プロと異なる工夫 数年間は新型コロナウイルスの影響で福祉施設への協力を仰ぐことが困難であった。しかし施設連絡会の幹事と協議を重ね、依頼に至った。またゼミの教授を通して学生への周知が出来た。		
●ボランティア保険	☒ （ボランティア活動）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

「あなたのこれからの背中を押すきっかけになりたい」

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 実際に視覚障がい者の方とお話する機会があり、点訳の意義を改めて感じました。 * ネットの情報だけでは得ることの出来ないリアルな現場の雰囲気を見ることができたのが貴重な経験になった。 * たくさんの人が協力してこそ、成り立っているんだなというふうなことに気づきました。 * 初めての特別養護老人ホームだったので初めは緊張しましたが、入居者の方と話すことが出来て良かったです。
●協力団体の声（抜粋） * 子どもと積極的に関わってくれて安心して活動をお願いすることができました。 * 学んだことを地域の方々に周知して頂くことが大切な実習内容だと考えています。 * 体験プログラムが終了しても継続して参加してくれているからすごく嬉しい。
●取り組みの成果、効果 本ボランティア体験プログラムを通じて、ボランティア活動への心理的なハードルを下げるができた。 参加者が実際の現場を体験し、人や地域と直接関わることで、「自分にもできることがある」という実感を得る機会となった。 また、受け入れ施設にとっても地域とのつながりを再確認する機会となり、双方にとって意義のある取り組みとなった。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） ・Instagramでの周知を行ったが、実際には学校でのチラシの配布や、先生からの案内でプログラムを知った学生が多かった。学生の情報ツールであるSNSを活用するだけでなく、直接呼びかける工夫なども必要だと感じた。 ・大学の課題で参加する学生も多く見受けられたが、次につながるようなコーディネートには至らなかった。活動終了後に引き続きボランティア活動に興味を持ってもらえるよう工夫が必要である。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



地区福祉委員会が実施するふれあい昼食会での食



コミュニティサロンでプルタブ整理



子ども食堂での活動

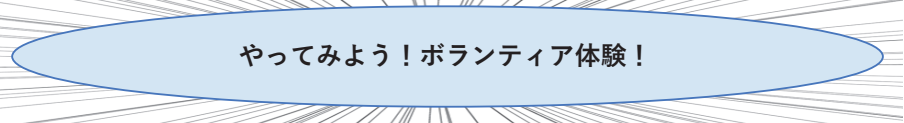
【基本情報】

事業名	夏のボランティア体験プログラム		
活動分野	■高齢者 ■障がい者 □児童 ■保育 □地域福祉 ■その他（イベント）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年10月31日	延べ参加人数	22人

【事業概要】

●プログラム内容 保育補助 子ども食堂での調理補助、子どもの見守り 高齢者施設でイベント補助、話し相手、囲碁・将棋対戦相手 イベント運営手伝い		●協力団体 保育園（4か所） 子ども食堂（3か所） 高齢者施設（6か所） 地域福祉（1か所） その他（1か所） ●実施場所（名称） 阿武山たつ子認定こども園 高槻高槻あいわ保育園、富田認定こども園 庄所子育てすくすくセンター、高槻市社協 そんぼの家S高槻南、畑の子ども食堂 じゃんぷ学童クラブ、桜台地区福祉委員会 高槻市立郡家・山手・芝生・春日・富田すこやかテラス	
●目的・ねらい 体験プログラムを夏に実施することにより、特に学生のボランティア体験のきっかけをつくり、若年層のボランティア担い手を増やす		●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 ・助成金4万円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 準備 ①市内の福祉施設にアンケートを実施し、体験プログラム内容を募集 ②集まったプログラムを基にチラシ作成 ③周知 ・市内中学校、高校にチラシ送付 ・ホームページ、広報誌掲載 ④申し込み受付後、随時活動先を調整 ⑤活動決定者のボランティア保険受付 ⑥活動後、参加者と活動先に感想聞き取り		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 中学生以上のボランティア体験に興味がある方 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（ ） ☐ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） これまでは福祉施設中心だったが、今回は従来からのつながりを活かして子ども食堂でのボランティアプログラムを充実させた。また、プログラム参加者のボランティア保険を、本会が負担することにした。 学生だけではなく、一般の方も対象に、初めてのボランティア活動を後押しする取組とした。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 助成金を活用しボランティア保険を本会で負担 子ども食堂や保育施設での子どもを対象としたボランティアプログラムを充実 *これまでの体プロと異なる工夫 ボランティア保険を本会での負担としたことにより、参加のハードルを低くした 高齢・児童・保育・地域福祉とプログラムの選択肢を広げて、参加者増加を図った			
●ボランティア保険 （ ）保険		■ 社協が加入 ☐ 参加者が加入	

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * はじめはボランティアとバイトとの区別すら分かっていない状態だったが、日を重ねるごとにバイトとは異なる、人に感謝されることの喜びを感じることができたので良かった。 * 保育士の資格がなければ普段見れない現場で、ボランティアに参加できて、とても貴重な体験でした。またぜひ参加したいです。よろしくお願いします。 * 楽しかったので、またぜひ参加したいと思います。
●協力団体の声（抜粋） * 急速、利用者の方のスマホ相談対応をボランティアの方にさせていただくことになったが、快く対応していただいた。 * 丁寧に子どもたちと関わってくれて助かった。 * 園内の清掃活動なども協力していただき、非常にありがたかった。
●取り組みの成果、効果 体験プログラムでの体験を通してボランティア活動に興味を持つ参加者が多く見られた。 特に高校生・大学生の参加が多く、将来の進路として保育系や高齢者福祉系への関心から、当該分野でのボランティア活動を希望する声もあった。また、活動先の利用者とのふれあいを「楽しい」と感じたボランティアの方が非常に多く、活動の継続を希望される方も数名おられた。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） プログラム実施期間を7月1日～10月31日としたが、申込がない期間もあったので、次年度は実施期間を見直すことを検討したいと思います。また、障がい系のボランティア活動がなかったり、普段からつきあいのある活動受入先からプログラム提供がなかったということがあったため、次年度は早めに声掛けをして、プログラム協力団体の拡充を目指したい。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



2025タッピーまつりで受付①



2025タッピーまつりで受付②

【基本情報】

事業名	令和7年度ボランティア体験プログラム		
活動分野	■高齢者 ■障がい者 ■児童 ■保育 ■地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年8月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	76人

【事業概要】

●プログラム内容 【ボランティア体験講座】…各種ボランティア体験【マジック、手づくりおもちゃ、折り紙】 （ボランティア活動者とのふれあい、ボランティア学習） 車いすであそぼう（車いすユーザーとのふれあい） 子ども防災食クッキング（防災食とボランティア学習） 【子ども関係】…子ども食堂（調理補助、配膳、見守り、学習支援） 子ども将棋クラブ（将棋の指導や対局） 保育園（保育補助、施設行事運営補助） 宿題かふえ 【障がい者関係】…障がい者施設（外出補助、施設行事運営補助、利用者とのふれあい） 障がい者スポーツ（ふうせんバレー） 精神障がい者支援（昼食会、お茶会、卓球、ボッチャ、囲碁、将棋など） 各 交流の場支援）		●協力団体 ・地区福祉委員会 ・茨木市ボランティア連絡会 ・登録ボランティア（個人、グループ） ・茨木子ども食堂 ・私立保育園 ・茨木子ども将棋クラブ ・障がい者施設 ・茨木ローザス	
●目的・ねらい ボランティア活動を通して、思いやりの心や社会とのつながりを学びながら、自分の世界を広げ、誰かの役に立つ喜びや将来を考えるきっかけづくりとする		●実施場所（名称） ・茨木市社会福祉協議会 ・茨木市社会福祉協議会主原分室 ・市内私立保育園 ・水尾コミュニティセンター ・茨木市文化子育て複合施設 おにクル ・市内障がい者施設 ・障害福祉センターハートフル ・茨木小学校 ・ぶらっとホーム 丘の家へゆ楽へ・ぶらっとホーム ル・リアン ・子民家よってこ食堂	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：市内福祉施設（高齢者、障がい者、児童関係）へボランティア受け入れについてのアンケート調査の実施。 6月：社協独自のプログラムに加え、市内福祉施設（高齢者、障がい者、児童関係）や地区福祉委員会、その他市民活動団体にも受け入れの協力依頼。 7月上旬：プログラム募集と具体案作成。チラシの作成。 7月中旬：市内の高校や大学の担当教員へ参加の呼びかけ。市内公共施設等へ開催要項及びチラシ等での啓発。 8月上旬～11月：各プログラム実施及び受け入れ。アンケートなどで振り返りを行う。		●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 ・助成金4万円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：市内福祉施設（高齢者、障がい者、児童関係）へボランティア受け入れについてのアンケート調査の実施。 6月：社協独自のプログラムに加え、市内福祉施設（高齢者、障がい者、児童関係）や地区福祉委員会、その他市民活動団体にも受け入れの協力依頼。 7月上旬：プログラム募集と具体案作成。チラシの作成。 7月中旬：市内の高校や大学の担当教員へ参加の呼びかけ。市内公共施設等へ開催要項及びチラシ等での啓発。 8月上旬～11月：各プログラム実施及び受け入れ。アンケートなどで振り返りを行う。		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 対象：ボランティア活動に関心がある方 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（市広報誌、社協広報誌） ☐ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） ボランティア活動への第一歩としてもらうため、その人それぞれが持つ強みを活かせるよう、多種多様な講座や体験プログラムを準備しました。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして ・（コロナ禍を経て）ボランティア受け入れに関する意識調査も含めたアンケートを実施。 ・アンケートを実施した上で、受け入れ協力の依頼を実施。 ・Googleフォームでの申込を可能にした。 *これまでの体プロと異なる工夫 ・Googleフォームを活用し、スマートフォンでの検索と申込を可能にした。			
●ボランティア保険	ボランティア・市民活動行事保険	■社協が加入	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

誰かのために、何かのために踏み出す一歩が、自分の成長につながる！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 地域で活動するボランティアさんの活動を知る良い機会となりました。 ＊ 何か自分のできることを見つけたいと思い参加しました。良い経験ができました。 ＊ ボランティア活動をする色んな立場の人がいることを知ることができました。 ＊ 今後も機会があればボランティア活動をしてみたいと思いました。 ＊ 色んなボランティアがあることを知り、自分も将来できることを考えます。
●協力団体の声（抜粋） ＊ 一生懸命に手伝いをするボランティアの姿を見て、こちらも元気をいただきました。 ＊ 若い学生さんが地域活動に触れる機会となり、今後も大切にしたいと思いました。 ＊ 利用者とゆっくり関わる時間を、ボランティアさんのおかげで提供できたのが良かった。 ＊ ボランティアセンターの存在を知る機会となったので、今後も活用していきたい。 ＊ 今後も機会があれば、受け入れ施設としてプログラムに参加しようと思いました。
●取り組みの成果、効果 スマホでの申込を可能にしたことで、若者や忙しい社会人にとって「申込が面倒」という心理的なハードルを下げ、気軽に参加できる環境にすることで参加者が増えました。 受け入れ協力先施設等の拡大のため、事前アンケートや説明会などを実施することで、ボランティアセンターの啓発にもつながりました。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 活動終了後のアンケートをGoogleフォームで回答できるように実施したが、回収率が低かったため、活動終了後に改めてアンケートのメールを送るなどの工夫が必要だと思いました。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



折り紙入門講座



手づくりおもちゃ入門講座



マジック入門講座



車いすであそぼう



宿題かふえ



子ども防災食クッキング

【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム2025		
活動分野	☐ 高齢者 ☐ 障がい者 ☐ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	14人

【事業概要】

●プログラム内容 コミュニティカフェや子ども食堂の他、フードドライブの仕分け		●協力団体 地区福祉会（14団体）、子ども食堂（16団体）、ボランティアサークル（1団体）	
		●実施場所（名称） 箕面市内	
●目的・ねらい ・ボランティアに興味関心のある人が一歩踏み出す機会の創出 ・活動への参加者を増やす		●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 助成金 4万円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：協力団体の募集 6月：チラシ作成 7～11月：相談・申込、随時調整 12月：報告書作成		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生から大学生、一般まで全て ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（ ） ☒ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） 地域福祉の推進のため、ボランティア体験先を地域活動を主としました。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 対象者を中学生にもひろげ、子ども食堂でのボランティアを実施しました。 *これまでの体プロと異なる工夫 中学校へのアセスメントの際にボランティア体験プログラムについて説明し、箕面市における学校から保護者への情報発信ツール「tomoLinks」で保護者への周知を行いました。 また、若い世代の活動者のすそ野をさらに広げるためのアプローチを検討するため、体プロの参加者には参加のきっかけを丁寧に聞き取りました。			
●ボランティア保険	（ ）保険	☐ 社協が加入	☒ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

ボランティアのはじめの一步

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 夏休みの子どもの居場所のボランティアがあることを初めて知り、子ども達がとても安心できる場所だなと思いました。 * すごく温かく迎え入れてくださる方ばかりで嬉しかったです。同世代の知り合いもでき次回も参加しようと思う。 * はじめは学校の課題をきっかけに参加しましたが、普段チャレンジできないことができ、てやがいが感じました。
●協力団体の声（抜粋） * 若い世代の方が来て、積極的に手伝ってくださりとても助かりました。 * 子どもと年齢が近いお兄ちゃん、お姉ちゃんに来てもらえると子ども食堂に参加している子ども達も嬉しそう。
●取り組みの成果、効果 実施時期が夏休み期間中ということもあり、学生からの申込みが多くありました。 ボランティア体験プログラムへの参加がきっかけで、今後もボランティア活動を継続される方がいました。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 地域のイベントを希望される方も多くいましたが、日程や受け入れ団体さんとの調整がつかないこともあったため、今後は地域のイベントの受け入れ先を増やす等工夫していきたいです。 近隣大学からの申込がなかったため、広報の仕方を検討したいと思います。

【活動風景】各画像にかんたん説明（キャプション）をつけてください。



▲子ども食堂で緑日のボランティア体験



▲夏休みの子どもの居場所でボランティア

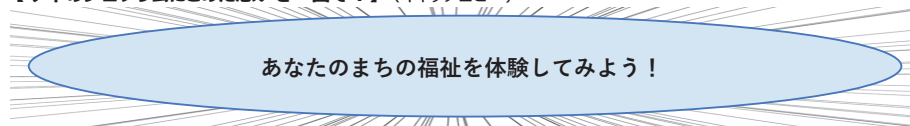
【基本情報】

事業名	あなたのまちの福祉を知ろう！体験プログラム		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☐ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和8年3月31日	延べ参加人数	49人

【事業概要】

●プログラム内容 ・小中学生のためのボランティア体験講座 ①車いす・高齢者疑似体験親子講座 ②切手整理ボランティア ③手話講座 ・市内福祉施設でのボランティア体験18プログラム 保育園の夏祭りボランティア 保育施設ボランティア 高齢者施設のイベントボランティア 宿題カフェボランティア 等		●協力団体 ・手話サークル「もくもく会」 ・市内高齢者施設・保育所
●目的・ねらい 若い世代へボランティア活動の啓発と周知を図る。 希薄になりつつある地域のつながりを取り戻すきっかけづくり。		●実施場所（名称） ・摂津市立地域福祉活動支援センター ・正雀愛育園 ・せつつ遊育園 ・一津屋愛育園 ・あとりえらぼ遊育園 ・摂津ひかり苑 ・とりかい白鷺園
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 4月 市内福祉施設へ受け入れ協力依頼 5月中旬 手話サークル「もくもく会」、社協「介護係」へ講座協力の依頼と日程調整 6月 プログラム一覧・チラシ作成、府社協HPへ掲載、社協ニュース掲載 7月 広報せつつ掲載、校長会で周知、市内学校、公民館、児童センター、図書館等へチラシの配布と設置依頼 7月1日～ 市内福祉施設のボランティア体験プログラム開始 7月30日 小・中学生対象 車いす・高齢者疑似体験親子講座 8月1日 小・中学生対象 切手整理ボランティア 8月4日 小・中学生対象 手話体験講座		●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】 助成金4万円 ●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（ ） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 参加者が体験を通して、身近な施設や、高齢者、障害者に関心を持ち、ボランティアのやりがいや、楽しさを感じ、地域のつながりづくりのきっかけになるようなプログラムにしたいと思いました。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など ＊昨年に引き続き期間を年度末まで延長しました。 ＊身近にできるボランティアを体験してもらえよう使用済み切手の整理ボランティアをプログラムに加えました。		
＊これまでの体プロと異なる工夫 ＊より多くの方に参加していただけるよう、申込方法をグーグルフォームに変えました		
●ボランティア保険	（活動・行事）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



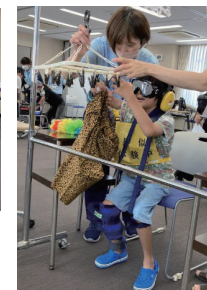
【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 慣れないことも多かったですが、とても充実した時間を過ごせました。また参加したいです。（保育施設体験） ＊ 最初は子どもに嫌われたり、いやがられたらどうしようと不安でしたが、みんな優しく受け入れてくれ、施設の人も親切でとても楽しい経験でした。（高齢者施設の宿題カフェ） ＊ 手話は難しかったけれど、色々な人との交流が楽しかったです。（手話体験講座）
●協力団体の声（抜粋） ＊ たくさんのボランティアがイベントを盛り上げてくれてよかったです。（保育園夏祭りイベント） ＊ 自分たちと年齢に近い学生のボランティアに子どもたちはみんな喜んでいました。（高齢者施設の宿題カフェ） ＊ 参加者と活発な交流ができモチベーションが上がりました。（手話体験講座）
●取り組みの成果、効果 ・ボランティア体験により、子どもや高齢者に頼られたり、必要とされ、やりがいや喜びを感じたという意見が多く聞かれました。 ・手話体験や、車いす・高齢者疑似体験では普段できないような体験が出来、様々な気づきを得られたという声が聞かれ、ボランティア活動につながるきっかけづくりができたのではと感じています。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） ・申込方法にグーグルフォームを導入し昨年より多くの方が参加し、手続きが簡略化できました。しかし、保護者の同意が必要な年齢の参加者へは書面でのやり取りとなり、従前通り申込に日数を要しました。 ・使用済み切手整理ボランティアは単調な作業のため、小学生が時間を持て余すのではという不安がありましたが、とても盛り上がり、次年度も開催したいと思いました。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



【車いす・高齢者疑似体験親子講座】



（左）車いす操作の注意点を真剣に聞いています
（右）高齢者疑似体験キットを装着し洗濯物干し



【使用済み切手整理ボランティア】
いろいろな切手に興味津々



【手話体験講座】
手話を教えてもらいながらろう者と交流

【基本情報】

事業名	夏のボランティア体験プログラム		
活動分野	☒ 高齢者 ☐ 障がい者 ☐ 児 童 ☒ 保 育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	22 人

【事業概要】

●プログラム内容 ・地区配食サービス調理体験 ・保育園での保育体験 ・高齢者デイサービスセンターでの利用者支援体験		●協力団体 ・しまもと里山認定こども園 ・万葉館デイサービスセンター ・第三地区福祉委員会	
		●実施場所（名称） ・しまもと里山認定こども園 ・万葉館デイサービスセンター ・島本町ふれあいセンター内調理室	
●目的・ねらい ・ボランティア体験を通して、地域福祉について知ってもらう		●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】 助成金4万円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ・4月：企画・立案開始 ・5月：地域福祉委員会、地域貢献連絡会核施設へ協力依頼 ・6月：広報周知（広報誌、社協ホームページ、ボラセンLINE、Instagram） 申込受付開始 ・7月～9月：各プログラム実施 ・10月：全プログラム終了		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 全住民 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（しまもと社協だより、広報しまもと） ☒ その他（LINE）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） ・ボランティア体験を通して、地域福祉について知ってもらうとともに、新しい自分と出会うきっかけとなっていきたい			
●今年度の新たな取り組みや工夫など ＊新たな取り組みとして 特になし			
＊これまでの体プロと異なる工夫 特になし			
●ボランティア保険	（ボランティア活動）保険	☒ 社協が加入	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

ボランティア体験を通じて、新しい自分に出会ってみませんか

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 沢山の高齢者の方と関わりコミュニケーションをとりとても楽しかったです。 ＊ 利用者さんの笑顔がとても沢山見れてとても温かい場所だと思いました。 ＊ こどもが、前夜に夢に見るほど楽しみにしていて終わったあとも満足そうにしていた。 ＊ いろんな人とコミュニケーションがとれて、楽しかった。 ＊ 皆さんがてきばき働かれていて、自分もその一員として役に立てて良かったです。
●協力団体の声（抜粋） ＊ 看護師志望の高校生が来られて、職員に積極的に質問されて、よく動いてくれてよかった。 ＊ 卒園児がたくさん来てくれて、自身の成長を誇らしく思っている姿を見ることができてよかった。 ＊ ボランティアさんにたくさん遊んでもらって、園児たちがとても喜んでいた。
●取り組みの成果、効果 小学生や中高生に参加してもらい、ボランティアの楽しさを体験してもらえた。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 実施後のアンケートを、WORD添付、紙でお渡し、G o o g l e フォームにて入力 of 3 パターン作成したが、回収率はあまり上がらなかった。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。

 LINE 配信画像

 Instagram 配信画像

※今年度は活動風景の写真を撮ることができませんでした。

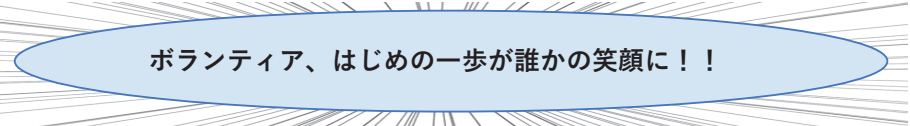
【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム		
活動分野	☐ 高齢者 ☒ 障がい者 ☐ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年10月31日	延べ参加人数	2人

【事業概要】

●プログラム内容 ・福祉祭り会場内でのお手伝い ・障がい者施設で、利用者との軽作業やプログラム活動への参加 ・障がい者施設で、利用者との畑作業や室内軽作業の手伝い	●協力団体 障がい福祉サービス事業所 たんぼぼの家 障がい福祉サービス事業所 ひまわり 障がい福祉サービス事業所 かめの家 ●実施場所（名称） 保健福祉センター及び西公民館 障がい福祉サービス事業所 たんぼぼの家 障がい福祉サービス事業所 ひまわり 障がい福祉サービス事業所 かめの家
●目的・ねらい 気軽にボランティア体験をしていただき、ボランティア活動の楽しさや、やりがいを感じていただきたい。そして、ボランティアに興味をもち、活動の第一歩を踏み出してほしい。	●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】 広報、ボランティア保険
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月 協力団体に連絡。協力依頼、内容確認。 チラシ作成、広報記事作成。 6月 広報開始（社協ホームページ、インスタ、ポスター掲示） 他団体へ周知 7月 社協広報紙に掲載 6月～10月 随時申し込み受付、受け入れ先との調整。 申し込み後、ボランティア保険加入。 体験後、アンケート実施	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生～一般 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌(こんにちは！とよの社協です 7月号) ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 誰でも気軽に参加していただきたく、若年層にも目にとめていただけるようなチラシ作りを心掛けた。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして SNSに投稿する際、見てもらいやすいように、また興味をもってもらいやすいように変更した。 *これまでの体プロと異なる工夫 アンケートをGoogleフォームでも作り、紙、word、Googleフォームいずれか答えやすいものを選んでもらった。	
●ボランティア保険	☐ ボランティア活動) 保険 ☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

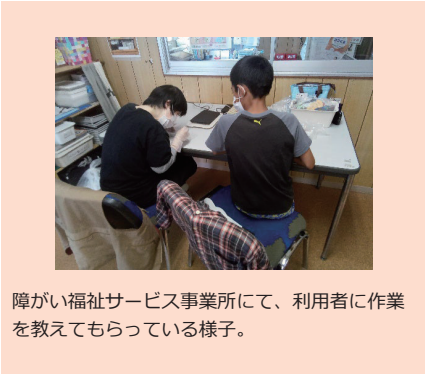
【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 色んな体験ができ、勉強になった。 * 単調な作業をとてども丁寧にされていることに驚き、勉強になった。 * 今後も同じ地域で生活する仲間として、交流させていただきたい。
●協力団体の声（抜粋） * ボランティア活動の受け入れは基本的にいつでも可能ですので、夏休みだけでなく、春休みや冬休みも活用してぜひ来ていただきたい。
●取り組みの成果、効果 今回、貴重な体験ができてよかった、まだまだ知り得ないことがたくさんあるのでまた機会があれば参加したいとの声をいただいた。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） HPやインスタを活用し、広報活動をしたが、なかなか参加者が集まらなかった。 来年度は新たに高齢者施設にご協力いただけるので、選択の幅が増えることで、ボランティア体験希望者の増加に期待する。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



障がい福祉サービス事業所にて、利用者に作業を教えてもらっている様子。



細かな作業に挑戦！

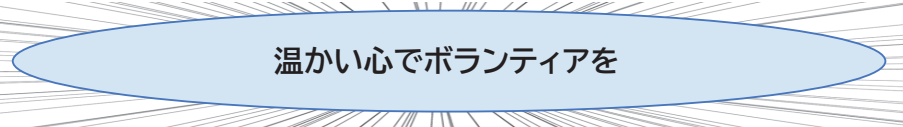
【基本情報】

事業名	令和7年度ボランティア体験プログラム 2024		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☐ 地域福祉 ☒ その他（市民イベント）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	18人

【事業概要】

●プログラム内容 - 働く知障がいのある仲間の余暇活動応援を体験（7/13、8/17、9/14、10/19、11/16） - SA守口みつわ活動体験（脳トレ）（8/20） - 傾聴ボランティア活動体験（交流サロン準備）（8/23） - 第12回ボランティアフェア（準備、見守り、片付けの手伝い）（11/11） - 肢体不自由児者日帰りバスレク、大阪・関西万博レク（9/24、10/7）		●協力団体 - ボランティア連絡会 - グループホームすだち - 傾聴ボランティアいいな - SA守口みつわ - 肢体不自由児者父母の会ほか	
●実施場所（名称） - カナディアンスクウェア - 大阪・関西万博 - ビール神戸工場 - ゲートウェイ物流センター - 伏見屋豆腐工場 ほか		●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 - 助成金 4万円 - 社協 0円	
●目的・ねらい 福祉・ボランティアの体験を通して理解を深め、ボランティア活動をはじめのきっかけになることを目的とする。		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 - 中学生、高校生、大学、一般 ※小学生は保護者同伴 ■チラシ・ポスター作成 ☐ その他（ ）	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 4月 ボランティア活動体験先・体験内容の決定 5月 守口市広報紙に掲載依頼（※結果不掲載） 6月 地区福祉委員会、学校、コミセンにポスター・チラシ配布 ボランティア連絡会で啓発 7月～11月 体験プログラム受付 体験実施、アンケートの回収 12月 報告書の作成、提出		●このあたりポイント（担当者としての想い） ※R7年度ボランティア体験プログラムでの担当者の想いや、こだわったポイントについて、障がいのある人たちにもボランティアに話しかけてリラックスして体験できるようにみんな一緒に楽しい時間を過ごしてもらった。 ●今年度の新たな取り組みや工夫など ※新たな取り組みとして ボランティアの体験時間をコンパクトにした短いプログラムを取り入れた ※これまでの体プロと異なる工夫 多くのボランティアが参加する行事を取り入れ同じ目線で話し合えるよう心がけた。	
●ボランティア保険 （行事、活動）保険		団社協が加入 ☒ 参加者が加入	

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 孫娘と初めてボランティア活動に参加できて良かった ＊ 近所で見かける障がいのある人と会話できた ＊ 短時間の活動でよかった経験になった ＊ もっといろいろな活動に参加したかった
●協力団体の声（抜粋） ＊ イベントが盛り上がった ＊ 参加した障がいのある人も若いボランティアと交流できた ＊ 障がいのある人が楽しそうに話しかけていたことが印象的でした ＊ 夏の暑い時期、無事に行事が出来た
●取り組みの成果、効果 ボランティアフェアなどイベントに体験として参加してくれることで、福祉委員やボランティアグループからも感謝の声が多くあった。若い世代だけでなく多くの人に福祉やボランティア活動の理解を得ることが出来た。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 高齢者施設等においていろいろな感染が心配なのか、ボランティア体験について理解が得られていない。今年も多くのボランティアグループが参加することにより、それぞれのグループの特色を活かし様々なメニューを提供できるようになった。最近の行政広報紙が啓発してくれなくなったのをきっかけに地域のコミュニティセンターを活用した啓発を進めていく必要がある。

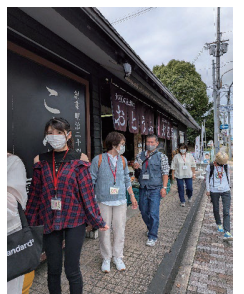
【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



↑ テントやイスの運搬・設営や運営を体験



↑ 関西万博で車いす介助の体験



↑ 日頃、高齢者に係る仕事をしている人たちも、初めて障がい者支援体験に同行



↑ 秋の恒例行事の味覚狩り、山の木々の間を車いす介助

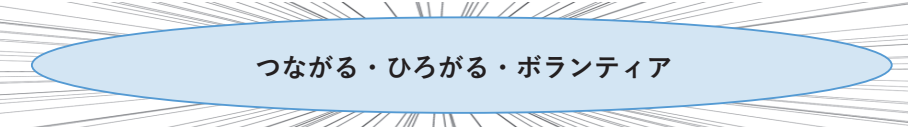
【基本情報】

事業名	ちよいボラ体験		
活動分野	■高齢者 ■障がい者 ■児童 ■保育 ■地域福祉 □その他（ ）		
実施期間	令和6年7月1日～令和6年9月30日	参加延べ人数	13人

【事業概要】

●プログラム内容 * 保育園にて、保育士とともに保育体験等（7カ所） * 障害者施設にて、話相手や軽作業のサポート、レクリエーション等の補助など（4カ所） * 高齢者施設の入所施設やデイサービスなど、話し相手や介助のサポート、リハビリの補助など（5カ所） * ボランティア団体（5カ所）おもちゃライブラリー、おもちゃ病院、手話サークル、自助具工房、傾聴ボランティアにて、活動のサポートを実施。 * ボランティアセンター ボランティア活動を希望している人たちの場所を設営、運営、話し相手などを体験した	●協力団体 社会福祉法人（高齢、障害、児童）が運営する施設16カ所 ボランティアグループ連絡会加盟団体5カ所 ●実施場所（名称） ・枚方市総合福祉会館（ラポールひらかた） ・市内学習市民センター 等
●目的・ねらい 市民の空いている時間を活用し、気軽にボランティアを体験できる機会の作成。参加者が体験を通して、様々な人々と出会い、新たな気づきや生きがいを得る中で、福祉の理解を深めていくことを目指す。	●事業規模 （予算： 12 万円） 【内訳】 助成金4万円・自主財源8万円
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ①12月 ・ちよいボラ体験の開催時期の検討 ②3～4月 ・枚方市ボランティア連絡会にて「ちよいボラ体験2025」について事業説明。 ・ボランティアグループに案内の発送及び参加の呼びかけ（プログラムの募集） ・2025年度版プログラム・チラシの作成と配布 ・「夏のボランティア体験2025」スタート（令和7年9月30日まで実施予定） ③6月 ・社協より6月号に体験者募集記事を掲載	●広報について（対象者、方法、ツール等） 小、中学生・高校生・大学生・専門学生・一般・チラシ配布 ■ チラシ・ポスター作成 ■ VCホームページ ■ SNS（Twitter / Facebook / Instagram） LINE / その他（ ） □ Googleフォーム ■ 広報誌 社協より □ その他
●ボランティア保険 （ ボランティア活動 ） 保険 □ 社協が加入 ■ 参加者が加入	
●こだわりポイント（担当者としての想い） 誰でも気軽に参加できる活動としてプログラムを作成し、多くの人に参加してもらえるように設定しました。	
●コロナ下での工夫（新たな取り組みやこれまでの体プロと異なる工夫等） * 新たな取り組みとして 始まる前から相談を受けられるプラットフォームを開催し、沢山の方にボランティアに参加できるようにしました。 * これまでの体プロと異なる工夫 ボランティアの体験だけでなく、継続してボランティア活動に興味を持ってもらう意識で実施。 協力団体が途中から参入できるように配慮しています。 * 感染防止のための配慮 参加者や協力団体へ幅広い年齢層の受入を実施するように依頼した。	

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * いつもと違う世代の子どもたちと過ごしてとても良い経験になりました。 * 色々な人の話を聞き、これからの自分がどうしたいかを考える機会ができた。 * 保育科の進学をしたいと思った。 * 子どもが好きなので、楽しく過ごせた。 * リハビリの様子が見ることができて、大変、勉強になった。
●協力団体の声（抜粋） * 純粋で丁寧に子どもと関わって下さいました。 * 実習のようになったが、福祉に興味を持って参加して頂けて良かったと思います。 * 控えめながらも、よく見て参加くださり、お客さまにも優しく接してくださり、ありがたかったです。
●取り組みの成果、効果 募集期間を夏休みを中心に合わせ、相談できるプラットフォーム（6、7、8月第2土曜日）を開催することで、ボランティアについての相談が増えていた。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） コロナ感染症の規制緩和に伴い、施設等の依頼が増えてきた。 これからボランティア活動を始めたい人、ボランティア活動を既に行っている人の交流できるプラットフォームにて、紹介等をしたが枚方市内の他機関が似たような動きがあり、今後の仕組みに検討をしなければならない。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



【基本情報】

事業名	第2回 ぼらポこどもまつり		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月19日～令和7年9月20日	延べ参加人数	164人

【事業概要】

●プログラム内容 【企画会議Ⅰ】7月19日 ・おまつりのブースを決める 【企画会議Ⅱ】8月2日 ・ブースのルールを決める 【企画会議Ⅲ】8月23日 ・会場の下見 ・ブースの看板を作成 【こどもまつり当日】9月6日 ・ブースの運営、おまつりを楽しむ 【ふりかえり会】9月20日 ・おまつりのふりかえり、これからどんなことができるかな		●協力団体 ぼらポ隊実行委員会、VC運営委員会、校区福祉委員会、摂南大学、イズミヤ、カレーハウスCoCo壱番屋、マルハン、みつわファクトリー、メイプルホールファミリー、寝屋川市民間保育所協議会、寝屋川市ミニバスケットボール連盟、YKベークینگカンパニー
●目的・ねらい ・子どもまつりの企画会議から当日の運営に関わるボランティア体験を通じて、地域の人や友だちと力をあわせて取り組むことの大切さを感じてもらい、未来のボランティア活動者の育成につなげる ・ボランティアをより身近に感じてもらうきっかけづくり		●実施場所（名称） ・寝屋川市立中央図書館マルチルーム（企画会議Ⅰ・Ⅱ） ・摂南大学（企画会議Ⅲ・当日） ・寝屋川市立保健福祉センター（ふりかえり会）
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 3月：摂南大学へ相談、開催要項作成 4月：教育委員会へ後援依頼、協力企業・団体へ相談、役員会・理事会へ企画提出、チラシの作成 5月：校区福祉委員長協議会にてチラシの掲示依頼、周知活動 6月：キッズキャスト（小・中学生ボランティア）募集、学生サポーター募集、各種打合せ 7月：各種打合せ、校区福祉委員会へ協力依頼、当日準備 8月：企画会議の内容を受けて打合せ・準備・買い出し・協力依頼 9月：おまつり実施、参加者とのふりかえり会 10月：ぼらポ隊実行委員会のメンバーとプログラム全体のふりかえり		●事業規模 （予算：10万円） 【内訳】 ・にじいろみらい基金 ・自主財源 ・寄付
●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ・寝屋川市民		●広報について（対象者、方法、ツール等） ■ チラシ・ポスター作成 →市内小中学校や民間保育所へ配布 ■ HPやインターネットを活用 →SNSでも情報発信 ■ 広報誌（ねやがわし社会福祉協議会だより「虹」） →市内全戸配布 ■ その他（ボランティアセンター通信）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 子どもたちに「ボランティアはおもしろい」「いろんな年齢の人と関わるのは楽しい」と体感してもらえるように、プログラム全体の雰囲気づくりを大切にしました。また大人が前に出すぎないようにし、小・中学生ボランティアと学生ボランティアが主体となって動きやすい環境を意識的につくりました。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 今回新たに、小・中学生ボランティアと共に「ふりかえり会」を実施しました。ふりかえり会を行うことで、自分たちの頑張りが、参加者が楽しんできたこと、たくさんの方の支えがあったことを再確認することができました。		
*これまでの体プロと異なる工夫 前回は未就学児の参加が多かったため、今回は寝屋川市民間保育所協議会に協力依頼し、未就学児も楽しめる場を提供していただきました。前回の反省を活かしながら、よりよいプログラムになるように検討を重ねています。		
●ボランティア保険	（ボランティア・市民活動行事）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

小さい子から 大きい大人まで ボランティアの魅力を知ってほしい！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ みんなで協力できたことが、助け合いだと思います。友達がいっぱい増えた。（4年生） ＊ みんな楽しそうにしていたからめちゃくちゃ楽しかったです（6年生） ＊ 小さい子の笑顔がたくさん見ることができてうれしかったです。充実した活動になりました（中学3年生） ＊ 子どもたちと一緒に考えて動くことが楽しかった（高校生） ＊ 子どもたちの関わりは楽しく、人から感謝されるとやってよかったと感じた（大学生）
●協力団体の声（抜粋） ＊ 子どもたちが楽しそうにボランティアしている姿をみて、自分もまだまだボランティアを頑張ろうと思った。 ＊ 子どもたちの発想がおもしろく、子どもたちから学ぶことも多かった。 ＊ 昨年から新たな要素も増やしてよかった。 ＊ 地域との関わりを持つことができて企業としても嬉しい。 ＊ 誘導のボランティアにもあいさつをしてくれる家族が多く嬉しかった。
●取り組みの成果、効果 子どもたちや大学生の声からも活動の達成感が伝わってきました。「またしたい!」「来年は全部のプログラムに参加したい」などの声もあり、これをきっかけに今後のボランティア活動が広がっていくと嬉しいです。また地域のボランティア活動者や企業・団体など多くの方が関わってくださいました。それが、子どもたちや保護者にも伝わっており、地域力強さを感じてもらえたことも良かった点だと思います。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 今年度は、本会がモデル事業として行っている「ぼらポ(ボランティアポイント)事業」の周知・展開も併せて行いました。子どもたちの活動が見える化するように、シールを集めるシステムを導入したことで、より達成感や自己有用感を感じてもらえたと思います。 反省点としては、多学年と一緒に活動をするため、プログラムの難易度に偏りがでたことです。次回は、学年に合わせてプログラム内容に差をつくるなど、より細やかにプログラムを考える必要があると感じました。
【活動風景】 各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



企画会議



当日



【基本情報】

事業名	夏のボランティア体験プログラム		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	67人

【事業概要】

●プログラム内容 【高齢者との交流】 ・レクリエーションなどの日常活動への支援 ・話し相手や職員のお手伝い 【障害のある方との交流】 ・知的・精神障がいのある方の話し相手 ・仕事として取り組んでいる授産製品やリサイクル作業等の支援補助 【子どもとの交流】 ・保護者が講座を受けている間の乳幼児の一時保育、保育園での見守り ・小学生向けの宿題教室における学習ボランティア 【地域活動】 ・献血の呼びかけ運動		●協力団体 ●大東市地域貢献委員会 ●大東市ボランティア団体連絡会 ●キッズプラザ ●実施場所（名称） ・大東市立キッズプラザ・大東つくし保育園・四条保育園・若竹こども園・第2聖心保育園・ホーリーハート大東・和光苑・みどりの里・津の辺・ハートフル大東・コスモス・手話サークル「虹」・音訳V「ともしび」・RIBBON・献血	
●目的・ねらい 様々な分野のプログラムを用意することで、これまで社協とつながりのなかった方とつながる。また、本プログラムを通して、ボランティア活動や地域活動に興味関心を持って、継続的に活動するきっかけをつくる。		●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 ボランティア保険 1万円、広報費 1万 施設協力受け入れにかかる費用 1万	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 【4月～5月】 ・プログラムの検討に伴い、協力施設へのアンケート、依頼 ・チラシや申込書の作成、Googleフォームの作成 ・広報だいたうへの掲載準備、ボランティア情報紙の作成 【6～7月】 ・チラシやポスターの配布 ・広報だいたうへの掲載 【7月～9月】 ・「初めてのボランティア講座」を開催 ・ホームページへの掲載 ・体験に来たボランティアに直接挨拶		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 市民向け：広報だいたう、ボランティア情報紙、ホームページ、Instagram 学校向け：チラシの配布 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（広報だいたう・ボランティア情報紙） ☐ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） 昨年度よりも学生参加者を多く募りたかったため、直接高校や大学へ出向き、チラシを配布した。また、本事業を担当し3年目になるため、どのスケジュールも1か月前倒し、チラシ等を余裕を持って作成することができた。今年度もできる限り参加者に会いに行き、挨拶をしに行った。夏祭りは参加者と一緒に楽しんだ。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして ①大東市地域貢献委員会における受け入れの拡充、②高校や大学への配布、③初めてのボランティア講座を開催、④アンケートをGoogleフォームで回収 *これまでの体プロと異なる工夫 7月初旬に「初めてのボランティア講座」を開催し、そこから夏の体験プログラムにつなげた。			
●ボランティア保険	（ボランティア）保険	■社協が加入	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

興味のある人はもっといるはず！！
 もっとこのプログラムを知ってほしい！！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊（献血の呼びかけ）挨拶をしたら返してくれる人やおじいちゃんが話しかけてくれたりしたけど、なかなか献血の協力まではしてもらえなかった。強面の人が献血しててイメージと違うなーと思った。 ＊子供たちと沢山遊べてとても楽しかったです。これを機に教師になるために沢山努力をしようと思います。 ＊幼児と触れ合うことは、楽しかったけど、それだけでなく、いろんな作業は大変で、保育士さんの仕事はすごいものなんだと気付かされました。
●協力団体の声（抜粋） ＊職員にとっても、自分の立ち振る舞いを振り返る等良い刺激になったと思います。 ＊ボランティアの方々に来ていただき、子どもたちも楽しかったと思います。地域の高校生も多かったので、園について知ってもらえる良い機会になったと思います。 ＊利用者さんに笑顔で接し積極的に取り組む姿が見られ、安心しましたし、嬉しかったです。
●取り組みの成果、効果 ・これまで関わりのなかった高校のボランティア部や大学のサークルとつながることができ、他のイベントについてもスムーズにチラシのやり取りができるようになった。また、本会の団体・個人ボランティアに登録してくれる方がいた。 ・本会のInstagramをフォローしてくれた。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） ・プログラム数が多かったため、デザイン上チラシを一新することができず、昨年通りになってしまった。ただ、文字が多くても、フォントや文字の大きさを工夫することで見やすくなることがわかった。 ・献血の呼びかけ運動をプログラムに入れていたが、熱中症警戒アラートが出たため、中止とした。献血は土日の開催が多く、事務所が空いていない日が多いため、次年度は献血担当者と日程を見直したい。 ・宿題教室にて、子どもが来ない日があった。別のボランティア体験ができる工夫があればよかった。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



①乳幼児施設での夏祭りボランティア



②献血の呼びかけ



③高齢者施設での盆踊りボランティア



④地域の居場所（RIBBON）での宿題見守りボランティア

【基本情報】

事業名	手話これから講座（小学生対象）・傾聴ボランティア養成講座		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☐ 児童 ☐ 保育 ☐ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	2025/7/19～2025/11/19	延べ参加人数	66人

【事業概要】

●プログラム内容 - 聴覚障がいの当事者の方から手話技法や当事者の視点・感覚についてお話し、手話での自己紹介や日常会話を学ぶとともに障がい理解を深める。 - 傾聴ボランティアグループを講師に迎え、介護施設での実習を含めた全5回の講座を実施。相手の気持ちに寄り添い、話に耳を傾ける傾聴の姿勢や技術について学ぶ。	●協力団体 - 門真市身体障害者福祉会 ろうあ部会 - 門真市手話サークル「くすの木」 - 傾聴ボランティアグループこころの耳会
●目的・ねらい - はじめて手話を学ぶ人を対象に、聴覚障がい者とのコミュニケーション手段の一つとしての手話を学び、当事者との関わりを通して、手話に関心を持ってもらい、手話ボランティアの養成を図る。 - 高齢者の話に耳を傾ける傾聴ボランティアを育成し、市内各施設や地域で活動する傾聴ボランティアの養成を図る。	●実施場所（名称） - 門真市立公民館 - 門真市保健福祉センター - 社会福祉法人ロータス福祉会 地域密着型介護老人福祉施設はすゆめ
●事業規模 （予算： 6 万円） 【内訳】 <手話これから講座> ・講師料及び協力費 10,000円 <傾聴ボランティア養成講座> ・講師料 50,000円	●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） - 前年度末 令和7年度の体験プログラムでの実施を含め、講師・協力団体と日程調整。会場を確保 - 開催2～3ヶ月前 講師・協力団体打ち合わせ 実習協力施設へ依頼 - 開催1ヶ月前 市広報、社協だより、社協HP・SNS、チラシにて広報 市内小学校へチラシ配布（手話これから講座のみ） - プログラム実施 手話これから講座：7/19 傾聴ボランティア養成講座：10/29～11/19
●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 市内在住の小学3～6年生（保護者） ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（広報かどま） ☒ その他（かどま社協だより）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） - 講師から手話を教わるとともに、当事者の生活について話していただき、障がい理解にもつながった。指文字で自分の名前を表してみる、学校で使える言葉を手話にしてみるなど、小学生にとって身近な内容にした。 - 今年度より介護施設での実習を再開。実践を通して傾聴について学んでいただくことができた。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 傾聴ボランティア養成講座では5年ぶりに介護施設での実習を再開。	
*これまでの体プロと異なる工夫 昨年度に続いて、児童への周知について校長会へ依頼し、市内小学校3～6年生を対象にチラシを配布した。	
●ボランティア保険	加入なし ☒ 社協が加入（施設実習のみ） ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

学んで活かす、ボランティア活動！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊とっても手話の大切さがわかった。（手話これから講座） ＊自分の名前の手話が印象に残ったし、とくに勉強になった。（手話これから講座） ＊「傾聴」の座学だけでなく、実習もあり、しっかりと学ぶ時間がありました。また無料ということにも驚いています。ありがとうございました。自分の成長も実感できています。（傾聴ボランティア養成講座） ＊傾聴ボランティアがあるのさ知らなかったが、講座を受講して知識が広がった。（傾聴ボランティア養成講座）
●協力団体の声（抜粋） ＊子どもやその保護者から手話について関心を持ってもらえていることが嬉しい。（手話これから講座） ＊子どもからとてもたくさん質問があってとてもよかった。（手話これから講座） ＊久しぶりに施設での実習を行うため不安もあったが、受講生だけでなく自分たちにもたくさんの気づきを得ることができて良かった。
●取り組みの成果、効果 終了後のアンケートでは7割以上が「また手話の勉強に参加したい」と回答しており、手話に触れ、継続的に学んでいくための入口となっている。当事者の方から日常生活の様子を実際に聞くことで、障がい理解を深めることにも繋がっている。 傾聴ボランティア養成講座では、約8割が「またボランティア活動に参加したい」回答しており、プログラム実施期間中だけでなく、今後のボランティア活動へ繋がる機会となっている。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 「手話をもうちょっと詳しく知りたい」という声や「再受講、フォローアップの講座をしてほしい」といった声があった。今後ボランティア活動に参加したいという意見が多かったが、同時に仕事との調整が難しいという意見があったため、体験プログラム以外にも多様な形でボランティア活動に参加できるような取り組みについて検討していきたい。

【活動風景】各画像にかんたん説明（キャプション）をつけてください。

<手話これから講座（小学校3～6年生対象）：7/19実施>



小学生7名と保護者3名が参加されました。自分の名前を指文字にしたり、挨拶や日常会話について、親子で一緒に楽しみながら手話を学ばれていました。

<傾聴ボランティア養成講座：10/29～11/19実施>



受講生15名が参加。全5回の講座を通して、傾聴の技術や姿勢について学びました。第4回では介護施設にて実習を行い、利用者様のお話を聴かせていただきました。

【基本情報】

事業名	令和7年度 ボランティア体験プログラム		
活動分野	☐ 高齢者 ☐ 障がい者 ☐ 児童 ☐ 保育 ■地域福祉 ☐ その他 ()		
実施期間	令和7年9月4日～令和7年11月6日	延べ参加人数	67人

【事業概要】

●プログラム内容 ①四條畷荘（習字サポート） ②緑を守る会（草木清掃） ③なわて子ども食堂（なわて子どもまつり） ④献血推進協議会（献血呼びかけ） ⑤なわて更生園（なわてまつり） ⑥ボランティアフェスティバルスタッフ	●協力団体 ①四條畷荘 ②緑を守る会 ③なわて子ども食堂 ④献血推進協議会 ⑤なわて更生園 ⑥ボランティア連絡会 ●実施場所（名称） ①四條畷荘 ②市民活動センター ③市民総合センター ④イオンモール四條畷そらのステージ ⑤なわて更生園 ⑥市民活動センター
●目的・ねらい ボランティア活動を身近に体験しボランティア活動に興味関心を持っていただく。	●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 ボランティア体験プログラム助成金
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 6月～7月 ボランティア連絡会・ボランティア団体・地域貢献委員会協力依頼 7月 チラシ作成 ホームページ・市内地区回覧で周知 7月～10月 受付開始 8月～10月 プログラム実施 アンケート依頼・回収・集計 10月～11月 プログラム終了	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 市民在住・在校生 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（なわて社協だより） ☐ その他 ()
●こだわりポイント（担当者としての想い） 気軽にボランティア活動に参加していただきたい。 地域の方、施設の方、利用者など多くの方と触れ合えるようなきっかけづくり。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など ＊新たな取り組みとして 依頼先を加えたことで、新たな受け入れ施設がありたくさんの方が地域の方と交流することができたこと。 ＊これまでの体プロと異なる工夫 内容に体験したい方の申込がありました。	
●ボランティア保険	（ ボランティア活動 ）保険
☐ 社協が加入	☒ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

きっかけは、ボランティア

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋）

- ＊ 皆さんと協力し庭がきれいになりました。楽しくとてもやりがいがありました。
- ＊ サポートして満足できる字が書けた時喜んでもらいこちらもうれしかったです。
- ＊ 自分のやり方が正しいのかと迷う面もありましたが少しでも喜んでいただけると自分のうれしいと思った。
- ＊ （献血）声かけ反応がうれしい
- ＊ 高校生の方達の積極的な活動がとてもよかったです。

●協力団体の声（抜粋）

- ＊ 利用者の方がとても楽しくしていました。
- ＊ 学生さんがいてるのでこちらも元気をもらえました。

●取り組みの成果、効果

はじめてボランティア活動された方が多くありました。

体験終了後ボランティアに興味をもっていたいただき活動を続ける方がおられきっかけづくりとなったと感じます。

●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等）

今回初めてのプログラム内容が多くあり参加を希望される方が多くあったことは、情報をみていただけているという実感することができました。可能な限り体験日に顔を出し参加者の方と会話をしました。ボランティア活動への想いを聞き心が温かくなりました。今後ボランティア活動情報など市民の方の目に触れるよう発信し社協含め施設の方や地域の方と触れ合うきっかけをつくっていききたいと思います。また参加後の施設・参加者アンケートをグーグルフォームを活用し感想をさけるようにしていきたいと思いました。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。

①四條畷荘
習字サポート

②緑を守る会
草木清掃

③なわて子ども食堂
なわて子どもまつり

④献血推進協議会
献血呼びかけ

⑤なわて更生園
なわてまつり

⑥ボランティアフェスティバル
スタッフ（手裏剣ブース）

⑥ボランティアフェスティバル
スタッフ（避難所ブース）

ボランティアフェスティバル
サポーターの皆さんには
Tシャツをお渡ししました

【基本情報】

事業名	ナツボラ～夏のボランティア体験プログラム～		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月25日～令和7年9月18日	延べ参加人数	28人

【事業概要】

●プログラム内容 ・ゆうゆうセンター館内見学ツアーガイド・おもちゃ作りのサポート ・ベルマーク分別体験 (内容) 障がい者との交流「ほほえみ」活動内での分別体験 ・登録ボランティア向けICT講座の講師サポート (内容) インスタグラム講習会・スマホよろず相談 ・ゲームスポーツ (eスポーツ) フェスタ運営スタッフ ・介護衣料「糸ぐるま」にぎりっこ (拘縮改善) づくり体験 ・おもちゃ作りとニュースポーツ・演芸「玉手箱」おもちゃづくり体験	●協力団体 手話「さつき」・点訳「虹の会」 おもちゃ作りとニュースポーツ・演芸「玉手箱」 障がい者との交流「ほほえみ」 介護衣料手作り「糸ぐるま」
●実施場所 (名称) ・交野市立ボランティアセンター ・市立保健福祉総合センター (ゆうゆうセンター)	●事業規模 (予算: 4 万円) 【内訳】 にじいろみらい基金助成金
●目的・ねらい ボランティアセンター及びボランティアグループのPRと夏休みを有効利用し、人材を育成する。	●実施にいたるまでのプロセス (準備から終了まで) ①4月: プログラムを企画。協力団体に依頼。 ②6月: プログラムを完成させ、チラシ作成。HP掲載。 ③7月: 市内の私立高校・府立高校に学生ボランティアにメールで周知。アンケート作成。市広報掲載。 ④8月: 市広報作成 社協だより掲載 ⑤9月: 全プログラム終了。終了後、振り返りを行う。
●広報について (対象者、方法、ツール等) 【対象者】 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ 社協ホームページ ☒ SNS (☒ Facebook / Instagram) LINE / その他 () ☒ Googleフォーム ☒ 広報誌 (社協だより、市広報) ☒ その他 ・市内私立高等学校、府立高校にチラシを配布 ・学生ボランティアにメールで周知	●実施後の気づき、今後に活かしたいこと (新たな発見、反省点等) ・昨年度まで学生対象にしていたため、体験者からの問い合わせもあったが、参加できるプログラムが少なかった。 ・夏休み期間なので、一般の参加者が少なく、また実質的なボランティア活動者に関しては8月開催は時期の検討が必要。
●こだわりポイント (担当者としての想い) 今年度は登録ボランティアグループの底上げに特化してプログラムを作成	●活動風景】 各画像にかんたん説明 (キャプション) をつけてください。 ICT講習会  学生講師に参加者のみなさんは笑顔いっぱいです ベルマークの分別活動は、毎年参加しているの、   小学生のころ、作りました。なつかしい～
●今年度の新たな取り組みや工夫など * 新たな取り組みとして 近年学生を対象とすることが多かったが、一般市民が体験しやすいプログラムを作成	
*これまでの体プロと異なる工夫 なし	
●ボランティア保険 ボランティア・市民活動行事保険 ☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入	

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】 (キャッチコピー)

ボランティア活動でやりがい・いきがい発見！！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声 (抜粋) * ICT講座の講師として、参加者の進行度などを確認しながら進めていくことの難しさを実感しました。 * こどもやどんな人でも簡単に作れるようなおもちゃが考えられていて、この団体の方たちの工夫を実感できました。 * 体の不自由な人のためにものを作ったりする活動があることを知れてよかったです。 * 初めてこのようなプログラムに参加してたくさんしたことや知らなかった知識を得ることが出来て良かった。	●協力団体の声 (抜粋) * 毎年来てくれるのうれしい。 * 親子で体験してもらえるのは良い。 * ICT講座は実施しているが、学生に講師をしてもらえると活気が出る。 * 普段はこどもを対象としたおもちゃ作りをしているが、大人対象のおもちゃを企画するのが楽しかった。
●取り組みの成果、効果 ・ベルマークの体験は昨年度の参加者も数名おり、ボランティア側も大変喜んでる。 ・イベントだけでなく通常の活動を体験してもらうことで、ボランティアの周知ができた。	
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと (新たな発見、反省点等) ・昨年度まで学生対象にしていたため、体験者からの問い合わせもあったが、参加できるプログラムが少なかった。 ・夏休み期間なので、一般の参加者が少なく、また実質的なボランティア活動者に関しては8月開催は時期の検討が必要。	
【活動風景】 各画像にかんたん説明 (キャプション) をつけてください。 ICT講習会  学生講師に参加者のみなさんは笑顔いっぱいです ベルマークの分別活動は、毎年参加しているの、   小学生のころ、作りました。なつかしい～	

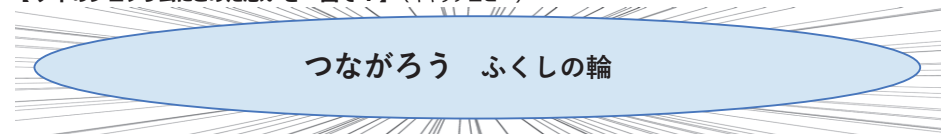
【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム IN東大阪		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☐ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	136人

【事業概要】

●プログラム内容 ・施設等ボランティア体験 社会福祉施設で、利用者の方とお話などのボランティア活動を通じて地域にある福祉施設を知っていただく。 ・子どもも大人も福祉教育1日体験教室 手話体験・手引き体験・車いす体験 大人まで福祉教育を体験していただくことで、当事者との交流や体験		●協力団体 登録ボランティアグループ「べんべん草」「手のひらの会」「たすけあい虹の会」 東大阪市内福祉施設 ●実施場所（名称） 東大阪市社協 会議室 東大阪市内福祉施設
●目的・ねらい 子どもから社会人・高齢者など、誰もがボランティア活動のプログラムに参加し、さまざまな人とのふれあいの中から、社会についての関心と共感を持ち、「ともに生きる」豊かな心を学び、福祉への理解を深めることを目的とする。		●事業規模 （予算： 29 万円） 【内訳】 印刷製本費/通信運搬費/諸謝金/保険料など ●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ・市政日より ・各小中学校、高校、大学へ配布 ■チラシ・ポスター作成 ■HPやインターネットを活用 ■広報誌（ボラの小窓・アピエ） ☐ その他（ ）
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ①5月：東大阪市内の社会福祉施設へボランティア体験プログラムの協力依頼。 ：登録ボランティアグループへ講師依頼 ②6月：冊子作成。 冊子完成後広報。 ③7月：ボランティア体験プログラム実施。調整。		
●こだわりポイント（担当者としての想い） 子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が体験していただけるように、冊子にそれぞれの年齢層の方々の感想を掲載し体験のイメージを持ってもらいやすいように工夫した。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして プログラムのチラシに、二次元コードを添付し、プログラムの内容や、参加の申込みから体験当日までの流れも分かりやすく記載した。 *これまでの体プロと異なる工夫 東大阪市のHPに掲載されている社会福祉施設へ協力依頼を郵送。（約400施設） 協力依頼についての問合せにも対応した。		
●ボランティア保険	（ボランティア活動・行事）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 話せる人と話せない人がいることを知り、また体験談もあり、コースもとても楽しかった。 * 実践的な内容で良かった。手話は、相手に伝えようとする意識が大切だとわかった。 * 車いすを、介助する方とされる方の両方体験できて、新しい気づきもありとても勉強になった。困っている人がいた * 初めての体験をいろいろできて良かった。 * 目の見えない世界を体験して、こんなに怖いんだと実感しました。手伝いをする際は、具体的に伝えることを心がけ
●協力団体の声（抜粋） * 参加者のみなさんが協力的で、楽しい体験教室になった。 * 良い人に体験に来ていただいて、良かった。
●取り組みの成果、効果 夏休み期間中の開催ということもあり、初めてボランティアに参加する機会となった中高生も数人見られました。これをきっかけに、今後も何らかの形でボランティア活動に関わりたいという声が上がっていました。また、体験を通じて継続的な活動へと繋がったケースもあった。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 参加人数が少なかったこともあり、発信力がなかったように感じました。 今後は広報の改善に取り組んでいけたらと思います。

【活動風景】各画像にかんたん説明（キャプション）をつけてください。



手引き体験教室



車椅子体験教室

【基本情報】

事業名	2025 ボランティア体験プログラム		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（		
実施期間	令和7年8月1日～令和7年10月31日	延べ参加人数	56人

【事業概要】

●プログラム内容 ①子ども（小・中学生）向けのボランティア体験プログラム ・デイサービスでのお手伝い体験 ・ハルーン体験 ・ボランティアカフェでのお手伝い体験 ・手話のボランティア体験 ②ボランティア体験プログラム ・地域の子育て支援や清掃、居場所づくりのお手伝い ・高齢者施設にて利用者さんとのコミュニケーション・交流 ・障がい者施設にて授産活動を通してお互いに共感や交流 ・児童施設にて児童とのコミュニケーションやサポート ・登録ボランティアグループでのボランティア活動		●協力団体 ・八尾市ボランティア連絡会 ・地区福祉委員会 ・民生委員児童委員協議会 ・社会福祉施設連絡会 ・八尾市内福祉施設 ●実施場所（名称） ・八尾市社会福祉会館 ・各施設他	
●目的・ねらい ・子どもの時から福祉とふれあうことによる福祉教育の推進 ・気軽にボランティアできるきっかけづくり ・社会福祉施設連絡会、地区福祉委員会、民生委員児童委員協議会との連携、地域の活動を知るきっかけづくり、関係性の構築		●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 ボランティア体験プログラム助成金4万円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ①施設、団体へ受入依頼 例年、受入いただいている施設、ボランティアグループへ依頼を行う。 今年度より、新たに社会福祉施設連絡会、地区福祉委員会、民生委員児童委員協議会に依頼。 ②積極的な広報活動 ・通常版、子ども向けのチラシ、ポスターを作成する。 ・市内の公立、私学の高等学校、大学へ訪問し、広報依頼を行う。 ・小中学校の校長会に依頼を行い、全保護者宛のメールにて周知を行う。 ・関係機関、駅などへ依頼しポスター掲示を行う。 ③実施後 ・受入施設、団体から提出された実施報告書の取りまとめを行う。		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生から高齢者まで ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（市政だより） ☒ その他（小中学校の全保護者向けメール配信）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） ・これまで参加が少なかった子どもたちが福祉に触れ合うきっかけづくりとして参加してもらえるよう、新たな取り組みとして福祉教育に重点を置き小中学生向けの体験プログラムを実施した。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など ・社会福祉施設連絡会、地区福祉委員会、民生委員児童委員協議会に協力依頼を行い、福祉施設、地域活動など幅広い体験プログラムとなった。 ・ボランティアセンターとの関わりの少なかった若年層に参加いただくため、新たに小中学生向けのプログラムの作成を行った。 ・ボランティア入門講座とボランティア体験プログラムを連動して行ったため、講座参加者に体験プログラムの周知を行うことができた。 ・申込をしやすいようにGoogleフォームを活用した。			
●ボランティア保険	（ボランティア活動）保険	☒ 社協が加入	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

始めてみよう！ボランティア

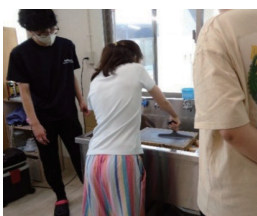
【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 福祉って本当にやりがいのある仕事だと思いました。 * 障がいを持つ方や地域の方々明るく生き生きと活動していたのを見て私自身とても元気をもらいました。このボランティア体験プログラムを通して様々な世界に触れることができて楽しかったです。 * 障がいがあるからこそ、よく考えられたルール作りを知ることができ、とてもいい勉強になりました。 * 小さい子供さんの参加で、ほんわかした雰囲気良かった。毎月されているので今後も参加して良いと言っていただけでうれしかったです。 * 高齢者さんたちの個性に合わせて仕事をされている姿がとてもカッコよく刺激になりました。
●協力団体の声（抜粋） * 子どもたちにとってボランティアについての興味を持ったり、職員以外の人との交流ができたことが、とてもプラスになりました。 * 若く意欲的な方が居てくださると、フロア全体の活気が上がるように感じた。 * 実際の事業所で体験できたり障がい者の方と関われる機会がもてる良い企画だと思います。 * 地域の方々との交流ができ、又、活動を知って頂く機会ができ喜んでいきます。
●取り組みの成果、効果 * 今までボランティアセンターと関わりが少なかった若年層の参加に繋がった。 * 体験先でボランティア活動や個人ボランティアの登録など新たなボランティア活動のきっかけとなった。 * 体験後アフターフォローを行ったことにより、個人ボランティアに登録し活動に繋がった方もいる。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） * 夏休みに実施した小中学生対象のプログラムは、周知期間からプログラム開始までの期間が短かったため、申込が集集中し、参加希望者への連絡や体験先の調整など大変であった。 * 八尾市内の高校へ出向き、ポスター掲示や周知依頼を行ったが、高校生の参加者が多くはなかった。ポスター1枚で体で具体的な内容がわかるようにする必要がある。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



ハルーンづくり体験



障がい者施設での体験



ボランティアカフェでのお手伝い体験

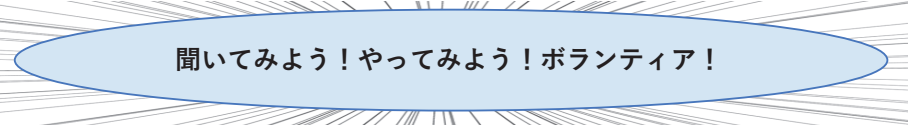
【基本情報】

事業名	2025とんだばやし 夏のボランティア体験プログラム		
活動分野	■高齢者 ■障がい者 ■児童 ■保育 ■地域福祉 □その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	40人

【事業概要】

●プログラム内容 ・富田林点訳サークル→点訳パソコンによる点字入力体験 ・とじぼ→体の不自由な人の自助具作成 ・おもちゃ病院→おもちゃの修理 ・金剛グループ→入所者の衣類の補修、買い物代行等・喫茶なごみ→飲み物の提供 ・要約筆記サークル（はなみずき→耳の不自由な方へ言葉を文字で伝える。 ・傾聴ボランティア「またあした」→活動の見学 ・在宅ボランティアグループ にんじん→レクリエーションへの参加 ・日舞グループ→日本舞踊の体験 トンボ→依頼された衣類補修、修繕 災害ボランティア「スクラム」→防災講座、ドローン体験、防災グッズ作成等 ・配食ボランティア→高齢者へのお弁当の配達及び見守り体験 ・虹いろサロンこんごう→利用者とコミュニケーション・スタッフの手伝い ・コミュニティセンター かがりの郷→子どもの見守り ・地域密着型介護老人福祉施設 さえずり→夏祭りの手伝い ・大阪府立こんごう福祉センター さわやか→レクリエーションの参加 ・社会福祉法人富用会 わくわく富田林・まんてん→知的障がいを持っている人の支援 ・医療福祉センター 四天王寺わらわぎ苑→レクリエーション補助 ・社会福祉法人徳風会 常徳保育園→子どもの活動補助、保育士の手伝い ・社会福祉法人光久福祉会 梅の里こども園→子どもの活動補助、保育士の手伝い	●協力団体 ・富田林点訳サークル ・とじぼ ・おもちゃ病院 ・金剛グループ ・喫茶なごみ ・要約筆記サークル はなみずき ・傾聴ボランティア「またあした」 ・在宅ボランティアグループ にんじん ・日舞グループ ・トンボ ・災害ボランティア「スクラム」(上記11件 登録ボランティア) ・配食ボランティア ・虹いろサロンこんごう ・コミュニティセンター かがりの郷 ・地域密着型介護老人福祉施設 さえずり ・大阪府立こんごう福祉センター さわやか ・社会福祉法人富用会 わくわく富田林・まんてん ・医療福祉センター 四天王寺わらわぎ苑 ・社会福祉法人徳風会 常徳保育園 ・社会福祉法人光久福祉会 梅の里こども園
●実施場所（名称） ・ボランティアセンター ・保育所 ・総合福祉会館 ・かがりの郷 ・富美ヶ丘荘 ・虹いろサロンこんごう ・さえずり ・さわやか ・わくわく富田林・まんてん ・四天王寺和らぎ苑	●実施場所（名称） ・ボランティアセンター ・保育所 ・総合福祉会館 ・かがりの郷 ・富美ヶ丘荘 ・虹いろサロンこんごう ・さえずり ・さわやか ・わくわく富田林・まんてん ・四天王寺和らぎ苑
●目的・ねらい 社協登録団体、市内の社会福祉施設などの協力により、ボランティアを身近に体験し、ボランティア活動を知ってもらい、活動のきっかけづくりの場としてもらう。	●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】 （印刷製本費・ボランティア保険） ボランティア体験プログラム助成金
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 4～6月 担当内でプログラムの検討。 6月 チラシの作成、周知活動。 7月～9月 体験プログラム実施 10月 全プログラム終了。振り返り。	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ・市民→社協広報、市内施設 ・中学校、高校、大学→学校への配架 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（社協とんだばやし） □ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 幅広い世代に、ボランティアの存在を知ってもらい、参加してもらうことができるよう、様々な媒体での周知や体験プログラムの検討を行った。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など * 新たな取り組みとして 地域の大学に周知を行い、若い世代の参加を促した。	
*これまでの体プロと異なる工夫 地域の大学に周知を行った。 メールでの連絡を適宜行い、日中の電話連絡が難しい方への対応を行った。	
●ボランティア保険 (ボランティア活動・ボランティア行事)保険	■ 社協が加入 □ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 自分が住んでいる地域に、こんな活動をされている方々がいることを知れてよかった。 * 子どもとの関わり方や、信頼関係の築き方を学ぶことが出来ました。また機会があれば参加したいと思いました。 * 減多にない機会なのでとても良い経験になりました。 * 全部が新しい体験で普通に生きていたらできないことだからボランティアに参加して良かったです！ * みなさま元気があって、こちら元気をもらえた。
●協力団体の声（抜粋） * 若い人に活動を知ってもらうことができてよかった。 * 普段なかなか活動に参加できない人に出会うことができ、とてもいい機会だと思った。 * ボランティアの一步を踏み出す機会として、とてもいいイベントだと思う。
●取り組みの成果、効果 ボランティアに興味はあるが、なかなか参加まで繋がらない方々が、体験プログラムを通して、気軽に参加してもらうことができ、市内のボランティア活動や福祉活動を知ってもらう良い機会になったと思う。ボランティア団体では、担い手不足が課題となる状況で、新たに参加してもらう人とのマッチングの場にもなった。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 学生から一般の方まで、幅広い層に体験していただくことができた。保育所など子どもと関わる体験では、事前に検便をしてもらう必要があり、応募者が辞退されることもあったので、各施設必要な手続きや、準備物も併せて周知する必要があると感じた。参加者からこんな体験プログラムがあれば、参加したかったという声もあったので、次年度はより様々な体験をしてもらえるよう、プログラムを検討したい。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。

傾聴ボランティアグループ 活動内容の説明



おもちゃ病院 記念撮影



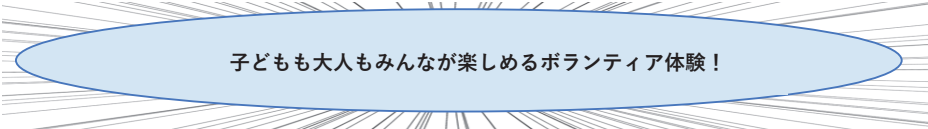
【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム2025		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年8月1日～令和7年8月31日	延べ参加人数	203人

【事業概要】

●プログラム内容 【市民活動編】マジックや体操、和太鼓、歌の体験等レクリエーション要素のあるものから、物作りの体験、絵本の読み聞かせ体験などの子どもたちも参加しやすい内容のもの、また手話や要約筆記、点訳、兄弟児やその家族が参加できるプログラムなどの福祉に関わるプログラムなど、24の様々な分野の活動を体験する。 【福祉施設編】地域福祉活動（民生・児童委員活動）、認定こども園、救護施設、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、就労継続支援B型事業所、障害者福祉センターに協力いただき7つのプログラムを実施。施設主催イベントのお手伝いや施設のご利用者との関わり、児童分野においては、子どもたちとのふれあい、障がい分野では、軽作業の体験やデイサービス、生活介護にて障がいのある方との関わりを体験する。		●協力団体 ・河内長野ボランティア・市民活動センター登録団体（24団体） ・社会福祉施設（7施設）	
●目的・ねらい 目的：子どもから大人まで誰もがボランティア活動を体験し、「ともに生きる」豊かな心を学び、ともに活動する喜びを体験できる機会を提供すること。ねらい：ボランティア活動の活性化、団体会員の増員促進、学生にもボランティア活動に興味や関心を持ってもらう。□		●実施場所（名称） ・イズミやゆいテラス ・ボランティアセンター ・キックス（市民交流センター） ・公民館など ・社会福祉施設	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：かわちながのボランティア・市民活動センター登録団体、社会福祉施設へ案内を送付（6月上旬参加団体の受付期間） 5月下旬：事前説明会を同内容で平日と土曜日の2日間実施。各団体へプログラムの趣旨説明と合わせて、「効果的なボランティア体験プログラムについて」新崎国広先生の研修を実施。 6月：市民活動団体、福祉施設からの参加申込を集約し、チラシを作成 7月上旬：市内の小中高等学校、関係機関へチラシを配布 8月1日～8月31日：プログラムの実施。 実施後、各団体に報告書を作成・提出いただく。		●事業規模 （予算：5万円） 【内訳】 助成金（4万円）、自主財源（1万円）	
●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 市内の小・中学校、高等学校や専門学校、大学 公共施設へチラシの配架を行う。 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（市広報8月号） ■ その他（ ）			
●こだわりポイント（担当者としての想い） 今回は約1か月のなかでも、複数の体験を同じ日に体験できる強化日2日間を設けました。別プログラムの参加者が他のものにも飛びこみで参加しやすい動線づくりと、同じ日に実施する団体同士で自分の団体だけでなくお互いのプログラムを市民の方にPRしあえるような関係性づくりにも今回のプログラムが繋がっていればと思います。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 同じ場所、同じ日に複数のプログラムを体験できるボランティア体験の強化日2日間を設定。 *これまでの体プロと異なる工夫 すべてのプログラムが別日、別場所での実施になるとプログラム間の行き来ができず参加のきっかけに繋がりにくいことから、各団体が参加日を幅広く選んでいただきやすい1か月間の実施という形は変えずに、同日、同場所で複数の体験ができる強化日を設けた。			
●ボランティア保険 （ボランティア市民活動行事）保険		☒ 社協が加入	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

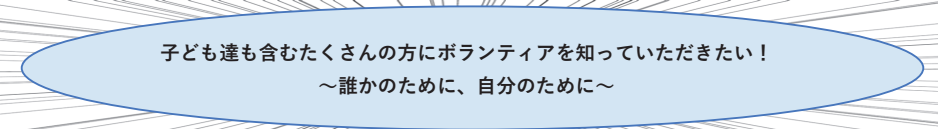
●参加者の声（抜粋） ＊ 自分にできることは何か考えてみたいと思ういいきっかけをもらいました。 ＊ 普段は遊ばない遊びをすることで新しい発見を得て、良い経験になりました。 ＊ 子どもの発想はとても面白いと思いました。発想を形にくださった皆様に感謝です。 ＊ 家ではなかなか経験させてやれないので、この機会ですっきりと作らせてあげることができた。 ＊ 遊びながら食べ物の大切さがわかって良かった。
●協力団体の声（抜粋） ＊ みなさん楽しんでやってくれていた、告知、PRをもっとしっかりと行えばよいと思った。 ＊ お子さんのアイデアが色々できて私たちも楽しませてもらいました。思わぬリメイクができました。 ＊ 1日に実施するプログラムが少ないと、フロア自体が閑散としてしまい。集客も見込めず残念に思う。 ＊ 見学で申し込んでいた保護者もおもちゃの修理に興味を持ち、一緒に参加してもらえた。 ＊ 楽しく参加していただいたようで良かったです。保護者の方にも色々なマークを知ってもらえた。
●取り組みの成果、効果 ボランティア体験の強化日を設けたことで、当初申込をしていたプログラムに加えて飛び込み参加で別のプログラムに参加していただけの方もいたため、同日・同場所で複数のプログラムを実施することに意義を感じた。施設編では子ども関係の体験に参加者が集まりやすいが、今回は若者サポートステーションを通じて特養、救護施設への参加をしていただける方もいたため、案内をする際は学校だけではなく、そうした支援組織に案内をすることも検討したいと感じた。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 実施後のアンケートから、参加団体には自分たちが普段活動をしている場所で実施したいところもあれば、一つの場所や日でまとめて実施を希望されていたところもあり、各団体の希望に沿う形で実施することの難しさも感じるが、登録団体が増え、子どものみならず大人も学べるようなプログラムも増えている。施設編ではやはり子ども関係の体験に参加者が集まりやすいので、市民活動編とコラボをして登録団体と施設とが関わられるようなプログラムを実施するなど、各協力施設に参加者が集まるような仕組みを作っていきたいと思う。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。

絵本の読み聞かせ体験 	おもちゃ修理 	健幸体操教室
Tシャツのリメイク体験 	環境紙芝居の上演体験 	丸太でブンブンごま制作

【基本情報】			
事業名	夏休みボランティア体験スタンプラリー、フードドライブを通したボランティア体験		
活動分野	☐ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年8月17日～令和7年8月22日	延べ参加人数	25人
【事業概要】			
●プログラム内容		●協力団体	
《夏休みボランティア体験スタンプラリー》 小学生を対象に、まつばらおもちゃ病院の受付＆修理体験・木工クラブでの木工体験・松原点訳サークルの点字体験に加えて、小学生ボランティアクイズを実施。		松原市ボランティア連絡会 松原子どもの居場所づくりネットワーク	
《フードドライブでのボランティア体験》 フードドライブの受付やPCへのデータ入力以外に、ブース前を通りかかる市民の方に向けてチラシ配布やパネルを用いてPR活動を行う。		●実施場所（名称） 松原市総合福祉2階・3階 松原市役所1階市民ロビー	
●目的・ねらい		●事業規模（予算：4万円）	
市内にどのようなボランティア活動があるのかなどを知ってもらい、活動を身近に感じてもらう。参加者が未成年の場合は、保護者となる子育て世代の方や祖父母世代の方もボランティアに関心を持っていただくきっかけを図る。		【内訳】 木工体験材料費 4,258円 修了証バッジ 1,350円 ボランティア 900円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで）		●広報について（対象者、方法、ツール等）	
4～6月 プログラムの検討、ボランティア団体に協力依頼 6月 各種アプローチ 7～8月 必要物品や会場の準備、プログラム実施		【対象者】 近隣中学校・高校・大学・専門学校へチラシ配架、市広報にて広く一般の方へ周知、松原社協公式LINEにて登録者に周知 ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（ ） ☐ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い）			
「ありがとう」や「頑張ってるね」などのコミュニケーションから「やりがい」や「楽しさ」を感じ、「自分でもできる」「ボランティア活動をまたやってみたい」と思える場にしたい。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など			
*新たな取り組みとして これまで中学生以上を対象と実施してきたが、今年度は小学生やその保護者の方にもボランティアを知っていただくことを目指し、小学生向けのプログラムを企画・実施した。			
*これまでの体プロと異なる工夫 小学生対象のプログラムに参加した小学生が中学生以上対象としていた既存プログラムにも参加したいと声が上がったことから、「やってみる」「できることをしてみる」の想いを大切に、対象年齢を拡大し、幅広い年齢層の参加につなげることを意識した。			
●ボランティア保険	（ボランティア市民活動行事）保険	■社協が加入	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋）
* はじめてして楽しかった * 何か困っている人の手助けのなると思うと、やって良かったと思えた * 思っているより、気軽にできた * 子どもでもボランティアができることをはじめて知った * 何か学校と結びつくような活動をやってみたい
●協力団体の声（抜粋）
* 小さな子供たちの参加を通して、保護者の方にも活動を知っていただける機会になり良かった * 若い学生が参加してくれると活動が活気づき良かった * 普段の活動とは異なる雰囲気で、一生懸命取り組む小学生が可愛く楽しかった またやってみたい * 参加された方が楽しそうで嬉しかった
●取り組みの成果、効果
夏休みボランティア体験スタンプラリーは、今まで対象としていなかった低年齢の子ども達を対象にし、楽しんでもらいながらボランティアを知ってもらう機会になった。また、子ども達だけでなく保護者の方にもボランティア活動を知っていただくきっかけになった。フードドライブは、地元の高校生を中心に、昨年参加された中学生が今年も積極的に参加された。「自分もできる」「またやってみよう」の気持ちを持って再び今年も参加に繋がったことから、ボランティアを知る・ちょっと体験することで、活動を身近に感じてもらえるきっかけになったり、新たなボランティアに目を向けるきっかけに繋がった。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等）
今回、小学生対象のプログラムを実施する中で、子どもと一緒に（ボランティア活動を）やってみたいと保護者の方からお声をいただくことがあり、新たな発見だった。今回、周知活動に十分な準備ができなかったことから、次回は周知方法をもう少し早い段階から、検討し準備していきたい。
【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



【基本情報】

事業名	夏のボランティア体験プログラム2025		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	27人

【事業概要】

●プログラム内容 ・こども園で園児と一緒に遊んだり、お世話体験 ・保育園等にて夏祭りを盛り上げるお手伝い ・高齢者施設にて、絵手紙を描くお手伝い ・高齢者に対して折紙を通じて交流体験 ・自宅や高齢者施設等を訪問もしくは電話でお話を聴く ・カフェボランティアの接客や話し相手でのボランティア ・高齢者施設や障害者事業所にてレクリエーション活動の補助	●協力団体 ・社会福祉協議会あおぞらこども園・社会福祉協議会ベビーハウス社協（保育園）・デイルーム花あかり・ボランティアセンター登録グループ・小規模多機能そらまめ・グループホームみやびのもり・社会福祉法人ふくふく会グループホームみやび・特別養護老人ホーム「アンジュ」・医療法人はあとふる介護老人保健施設悠々亭・医療法人健康会あそか西松庵・児童発達支援放課後等デイサービス
●実施場所（名称） ・あおぞらこども園・グループホームみやび・デイルーム花あかり・介護老人保健施設悠々亭・西松庵デイサービスセンター・羽曳野市社会福祉協議会ボランティアセンター・アンジュデイサービス・特定非営利活動法人 明 ラーメンあったか	●事業規模 （予算： 3 万円） 【内訳】 ・助成金 3万円
●目的・ねらい ・ボランティア活動の魅力や価値の発見につなげたい ・ボランティアを身近に体験してもらいたい ・ボランティアを初めてする方を募集したい	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ・小学校から大学・専門学生・一般まで全て ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ・社協ホームページ ☒ 広報誌（はびきのボランティアだより） ☒ その他 ・市内小中学校の保護者に連絡ツール（tetoru）で教育委員会に配信を依頼
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ① 5月：プログラム案を作成。 ② 6月：協力可能な施設、団体、登録ボランティアグループ等に説明会を実施した。保育園、登録ボランティアグループ等と打ち合わせ、参加の呼びかけ。実施期間を7月1日～9月30日までとし、チラシ作成。 ③ 7月：小学校、中学校、羽曳野市内の公共施設にチラシ配布。 ④ 7月～9月：参加者の事前説明会を実施し、希望体験先に連絡調整。 ⑤ 9月：全プログラムの終了。アンケート実施にて、振り返りを行う。	
●こだわりポイント（担当者としての想い） ・事前説明会にて、ボランティア活動の心得を伝え、安心してボランティアをしてもらえるよう説明。 ・ボランティアさんの想いや活動を参加者に伝え、ボランティアの輪を広める。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など * 新たな取り組みとして 6月に協力可能な施設、団体、登録ボランティアグループ等に説明会を実施した。	
*これまでの体プロと異なる工夫 ・市内小中学校の保護者に向けて連絡ツール（tetoru）にて配信し、広く周知した。	
●ボランティア保険	☐ ボランティア活動) 保険 ☐ 社協が加入 ☒ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

新しいチャレンジで“ありがとう”の輪をつくらう

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 傾聴したことがなくてドキドキしていたけど、みんないっぱい話してくれた * 利用者の方やスタッフと楽しく接する中で学べたことがたくさんあった * 子供達と関わって楽しかったと先生たちが普段していることを知る事ができたので充実した時間でした * 普段普通に過ごしていたら経験できないことをボランティアを通して学べたから * 普段こんな保育体験は出来ないなので、この体験を大学に入った時でもその先でも活かしていきたいと思います。 * 話すだけで人を喜ばせたりすることがすごいなあと思った
●協力団体の声（抜粋） * 高校生が、真面目に取り組んでくれていた。交流の中で利用者の違った一面が見れて良かった。 * デイサービス先での絵手紙作成ボランティアを高校生が楽しく取り組まれていて、高齢の方も喜んでおられた。 * 楽しく取り組まれていたので、次の夏祭りにも参加してもらいたい。声かけをしたい。
●取り組みの成果、効果 ・学生が、自身の進路（教師になりたい）のためにボランティアを通して保育体験をしてもらった。 ・昨年も参加した小学生が今年も高齢者施設でのカフェ接客体験に参加してくれた。 ・市内の高齢者施設を中心に広く紹介しており、ボランティアだよりやポスターを見た申込者も窓口に来所があった。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） ・日頃から定例会への参加や、普段のやり取りのなかでボランティアグループとのつながりがあるため、体験プログラムを依頼した際、スムーズに理解を得ることができた。 ・高校生の参加者が増え、ボランティア活動証明書の希望が多かった。 ・大学生の参加がなかったため、近隣大学に案内メールで周知したい。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



あおぞらこども園で夏祭りの手伝い



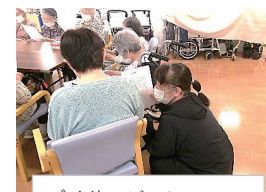
グループホームみやびにて傾聴ボランティア体験



地域向けカフェサロンの接客



特定非営利活動法人明 ラーメンあったかにて障害のある方との交流



デイサービスにて傾聴ボランティア体験



オレンジカフェ（認知症カフェ）にてカフェの接客

【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム2025		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	83人

【事業概要】

●プログラム内容 ・高齢者施設内の喫茶のお手伝い。 ・小学生の宿題等の学習支援。 ・地区福祉委員会のサロン活動のお手伝い。 ・デイサービス（高齢者）で、利用者との話し相手や、レクリエーションのお手伝い、パフォーマンスの披露。 ・子ども食堂のお手伝い。 ・高齢者施設イベントの自転車整理や警備、館内案内などのお手伝い。 ・子ども園の運動会の設営、競技進行補助。		●協力団体 ・施設連絡会 ・地区福祉委員会 ・ふじいでら子ども食堂ネットワーク
●目的・ねらい 市内の施設や、地区福祉委員会、ボランティアを、幅広い世代に知ってもらふ。		●実施場所（名称） ・藤井寺特別養護老人ホーム ・北岡会館・小山藤美町会館 ・特別養護老人ホームどうみょうじ高殿苑 ・惣社子ども園 ・大阪老人ホーム惣社
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：社会福祉施設連絡会の定例会に出席し、ボランティア体験プログラムの参加協力の依頼をする。 6月：プログラムの一覧（チラシ）を作成し、市広報、社協だより、ボランティア情報誌、HPに掲載。体験参加者を募集する。 7月：体験プログラム随時開始 体験申し込み受付し、申し込みプログラムの施設に参加者決定通知を送る。ボランティア保険を掛ける。 11月：体験プログラム随時終了。社会福祉施設連絡会の定例会に出席し、協力の御礼と報告を行う。 体験の参加があった施設から、随時実施報告書を提出してもらう。		●事業規模 （予算： 3 万円） 【内訳】 ・助成金 3万円
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：社会福祉施設連絡会の定例会に出席し、ボランティア体験プログラムの参加協力の依頼をする。 6月：プログラムの一覧（チラシ）を作成し、市広報、社協だより、ボランティア情報誌、HPに掲載。体験参加者を募集する。 7月：体験プログラム随時開始 体験申し込み受付し、申し込みプログラムの施設に参加者決定通知を送る。ボランティア保険を掛ける。 11月：体験プログラム随時終了。社会福祉施設連絡会の定例会に出席し、協力の御礼と報告を行う。 体験の参加があった施設から、随時実施報告書を提出してもらう。		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生から大学生・専門学生、一般
●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生から大学生・専門学生、一般		☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（市の広報・社協だより・ボランティア情報紙） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） ・若い世代の参加を増やしたい想いから、市内の学校へ足を運び協力依頼をした。 ・福祉施設のプログラムだけでなく、地域活動への繋がりを意識し、地区福祉委員会のプログラムを取り入れた。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など ＊新たな取り組みとして ・地区福祉委員会のプログラムを取り入れた。（福祉委員の活動を周知したい想いから） ＊これまでの体プロと異なる工夫 ・Googleフォームの活用。小学生から参加できるメニューの増加。 ・小中学生全校生徒へのチラシ配付。・高校・大学へチラシ配架やポスター掲示の協力を依頼。		
●ボランティア保険 （ボランティア市民活動）保険		☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

ボランティアを通して、もっと”ふじいでら”を知ってほしい！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊プログラムは1回だったが、その後も地区の行事に参加したり、良い人となつがれて大変うれしい。 ＊今までもボランティア活動をしてきたが今回も良い経験となった。カレーもおいしかった。 ＊ ばたばたした時もあったが皆で協力する事ができて良かった。 ＊ 日本の料理をはじめて作った。皆さんに手伝ってもらいました。 ＊ 学校からチラシを持って帰ってきて本人が行きたいと言ったので応募。色々体験させて良かった。
●協力団体の声（抜粋） ＊ 子どもたちが意欲的にボランティアに取り組んでいる姿を見られて、協力して良かった。 ＊ CoWとして「良い人が来てくれた」と福祉委員会の人たちが喜んでくれていて嬉しい。 ＊ 関わりの無かった子どもたちとつながることができた。紹介してくださってありがとうございました。 ＊ HPを見て芸術大学の学生など地元以外の人も交流できるきっかけとなったのは広く広報してもらえたから。 ＊ プログラムに関して、「人手」ではなく「交流」をメインにした方が参加者が集まるということがわかった。
●取り組みの成果、効果 福祉委員会が担い手不足の中、サロンのボランティアをきっかけに他の活動にも積極的に参加されたボランティアもいて、地域へつながるきっかけづくりに貢献できた。チラシを小中高大へ配布したことで幅広い年齢から申込があった。小学生から参加できるメニューを増やしたことで、子どもと保護者のボランティアをしたいという思いに応えられた。新たなボランティアとして南大阪国際語学学校の留学生との文化交流の機会ができた。施設へも繋ぐことができた。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） Googleフォームを利用したことで事務時間の短縮が図れたが、定員に達した場合や1週間前に迫ったプログラムを締め切るのが大変だった。 電話が繋がらなかったり、意思疎通が難しかったり、事前に受入先と顔合わせや説明の機会を設けたりと留学生の対応に時間を要したため、来年度も紹介してもらえるのであれば、授業の中で受入先から説明してその場で募集する機会を設けるなど先生個人ではなく、学校と連携ができれば対応がスムーズにいかと感じた。



▲子ども食堂のカレーの配膳



▲市民まつりにて射的の受付、案内



▲市民まつりの看板も子どもたちの手づくり



▲福祉委員会の喫茶でおしゃべり



▲高齢者施設でダンスや歌の披露



▲子ども食堂でパフェづくりと文化交流

【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム2025@河南町		
活動分野	☒ 高齢者 ☐ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☒ その他（ 絵手紙、環境 ）		
実施期間	令和7年8月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	25人

【事業概要】

●プログラム内容 ①ボランティアサロン部会：ちょっとした作品づくりをしながら、地域の方と交流 ②喫茶ボランティア オリーブ：認知症カフェのお手伝い ③傾聴ボランティア ロバの耳：傾聴についての活動、勉強 ④喫茶ボランティア ひまわり：軽費老人ホームにて喫茶のお手伝い ⑤絵手紙ボランティア ミモザ：絵手紙の作成体験 ⑥環境ボランティア ささゆり：地域の清掃活動 ⑦かなんおはなし会 どんぐりころころ：子どもたちへの読み聞かせ		●協力団体 ・左記プログラム実施団体 ・団体の活動先 町立図書館・おやこ園、社会福祉法人カナン、社会福祉法人大阪府社会福祉事業団河南荘 ●実施場所（名称） ①③⑤⑦かなんびあ2階ボランティアルーム ② 特別養護老人ホームあんり、地域密着型介護施設ゆうり ④ 軽費老人ホーム 河南荘
●目的・ねらい ・ボランティアの啓発活動や担い手の発掘	●事業規模 （予算： 7 万円） 【内訳】 共募3万円、助成金4万円	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ・4月上旬 各グループへ実施協力依頼 ・7月上旬 教育委員会を通じて町内小中学校へちらし配布依頼 ・7月1日、10月1日 社協かなんへ記事掲載（町内全戸配布） ・8月1日 体験プログラムの案内チラシ配布 ・8月～11月 体験プログラム実施、行事保険加入手続き、活動日は同席し、写真撮影とアンケートを実施する。	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生～一般まで 【方法】 ちらしを町内全戸配布および町内小中学校へ配布、町および社協広報紙への掲載、ボランティアによる口コミ ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌 （社協広報誌） ☒ その他 （Googleフォームの活用）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） この体験を通してボランティアの魅力を感じていただき、それをボランティア活動への参加につなげたい。 また、学生の参加者にはこれをきっかけに福祉分野への就職に興味・関心をもっていただきたい。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして ボランティア活動に対して、敷居の高さを感じないよう、参加された方にはアットホームな一面など気軽さをアピールしました。 *これまでの体プロと異なる工夫 大きく異なる工夫はありませんが、今年は7団体の受け入れを行い、プログラムを盛り上げていけるようにしました。		
●ボランティア保険	（ ボランティア活動 ）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

“あなた”がいきいきと輝ける場があります！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 体験したことを日常生活にも役立て、ボランティアのことをもっと知りたいと思いました。 ＊ 活動を通して、色々な知識を身につけられて、すごくよかったです。 ＊ たくさん子どもたちに絵本を読めて楽しかったです。 ＊ ドキドキしましたが、子どもの前で読み聞かせの発表ができて、貴重な体験でした。 ＊ 手芸を教える側にまわりましたが、とても難しかったです。
●協力団体の声（抜粋） ＊ 学生の参加者がいて、福祉のことに興味を持ってもらえてとても嬉しかった。 ＊ 体験を通してメンバーが増えてとてもよかった。 ＊ 地域の方とも交流することができ、とても有意義でした。
●取り組みの成果、効果 ・今回の体験プログラムをきっかけに、5名の方が新しくボランティアに入会されました。 ・学生の方で、体験を通して、進路について具体的に考えられるようになったという声があった。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） ①活動時間に対して、体験内容が早めに終わってしまい、参加者が何をすればいいのかわからない状況になってしまうことがあり、来年は体験内容について各ボランティアの代表と確認し合う時間を設けていきたい。 ②体験を通して、医療・福祉関係の仕事への関心が強まった方もいたので、今後はそのような学生の参加者に対して将来につなげられるような体験内容も検討していきたい。

【活動風景】各画像にかんたん説明（キャプション）をつけてください。



町立図書館にてかなんおはなし会 どんぐりころころでの活動です ↓



↑ボランティアサロン部会の活動です。紙粘土で花の小箱をつくりました。



↑喫茶ボランティア オリーブでの活動の様子です。

【基本情報】

事業名	夏☀ボランティアでいい汗流そう -2025-		
活動分野	■高齢者 ■障がい者 ■児童 ■保育 ■地域福祉 □その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	63人

【事業概要】

●プログラム内容 ① 高齢者を対象とした活動（配食ボランティア） ② 高齢者を対象とした活動（高齢者ふれあいサロン） ③ 登録ボランティア活動への参加・体験（喫茶ボランティア体験☺） ④ 登録ボランティア活動への参加・体験（スマホサポーター体験♢） ⑤ ボランティア連絡会で災害シミュレーション体験 ⑥ 総合福祉センター たいしくん号（送迎バス）乗車体験 ⑦ 町内の社会福祉施設でのボランティア体験 ⑧ 障がい者（児）を対象とした活動（当事者会の夕涼み会のボランティア） 母子・寡婦・父子を対象とした活動（当事者会の夏休みイベントのボランティア）		●協力団体 町内の社会福祉施設 太子町ボランティアグループ連絡会 太子町ボランティア各グループ団体 太子町個人ボランティア ●実施場所（名称） 町内の社会福祉施設 太子町社会福祉協議会（総合福祉センター）	
●目的・ねらい 当プログラムは体験活動や現地学習など、様々な触れ合いの場を提供し、この体験機会をきっかけにして福祉に対する関心を抱き、地域福祉について自ら考えることを目的とし、体験を通じて感動や喜び、充実感など、体験から得られる楽しみに気づいてもらうことが狙い★		●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】 助成金（V保険、材料費、消耗品等）	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：ボランティア連絡会（リーダー会）にて体験Vの案内 6月：プログラムの打合せ、協力依頼。府社協HP掲載 7月：チラシ発注、府社協HP掲載 チラシの配布や呼び掛け 8月：ボランティア体験プログラムの実施 9月：ボランティア体験プログラム終了 10月：社協広報掲載		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 町内の小・中・高と近隣の大学にチラシ配布 全地区福祉委員会へ周知 そのほか、社協のHP掲載など ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ■ 広報誌（広報ふれあい） ☐ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） 『去年よりも今年』『今年より来年』と毎年新しい領域（参加人数増、プログラムの新設など）に踏み込んでいるが、どうすれば地域から反応あるのか…色々悩み、まずはボランティア担当も楽しんでもできるプログラムを意識！ しかし日常生活自立支援事業の専門員を主担当としながら地区福祉委員会と世代間交流と福祉教育を目的とした事業、福祉団体の夕涼み会、ボランティア交流会と行事が重なる中でのボランティア体験受け入れで8月は休みなし。疲弊困る…			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 今年は町内だけに留まらず近隣の福祉系大学にも周知を行うと共に教頭先生へ直談判。他、施設連絡会に協力を依頼。			
*これまでの体プロと異なる工夫 これまでチラシはパワボやWordで作成していたが今年からキャンバproを活用！チラシ1,200枚配布。			
●ボランティア保険		（ボランティア市民活動）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

普段のボランティア体験に、体験+αの経験を…！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * （配食で）暑いので熱中症に気を付けてくださいねと声を掛けると笑顔で返してくれて嬉しかった。<小学生> * （防災体験での）ランタンづくり、カードゲーム『シャッフル』楽しかった。来年もまた来たい！<小学生> * 学校では経験できない経験ができた。同級生のみんなと話すのとはまた違う話ができて新鮮な気持ちでした。<中学生> * 自分の住んでいる地域の方と交流することができ、普段関わることがない地域の方の元気をみるのが出来ました。<大学生> * （施設ボランティアを通じ）自分は何もできなかった（涙）将来に向けてもっと勉強しないとけないと感じました。<大学生>
●協力団体の声（抜粋） * 子どもたちもみんなニコニコで楽しそうでした。楽しんでボランティアに触れられるのは良いことですね！ * 地域の子どもと地域の大人が交流できる場は大事だと思います。 * 若い学生がボランティア体験を通じて、少しでも福祉について興味・関心を持ってもらえたら嬉しいです。 * ボランティア体験から将来うちに就職来てほしい！
●取り組みの成果、効果 今年は去年よりも多く問い合わせ・参加があり、把握するだけでも大変でした。職場内でも上司へいつだれが何のボランティアに来るのかスケジュール表を作成して共有。また去年、一昨年と参加してくれた小学生やボランティア経験が課題の大学生が来たり、町内の障がい児施設から職員と子どもと一緒に参加したり、ボランティア体験から実際にボランティアになって頂けたり、人口12,000人と小さな町ですが、少しずつ夏のボランティア体験プログラムが地域に浸透しつつあるのかなと感じています。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 8月末に施設でのボランティア体験を希望した方が不登校の中学生で調整が9月の日曜日に決まったが、本人が体験後も平日にボランティアをしたいといった話がありました。施設側の理事長から義務教育中で学校に行かずにボランティアはどうなのか、またこれらの状況を学校が知らないのはどうかと言われ、学校は本人から話は聞いていたものの学校の立場上『登校を促さなければいけないが、ボランティアに行ってもいいかなとも言えない…』といった返答。教育機会確保法施行以降、考え方が変わっている中、学校側としても不登校の子がボランティアとして地域に出る機会を認めるように検討していくとなりましたが様々な部分で不甲斐なさを感じました。福祉の仕事は「どれだけ慮って先回りできるか」これを意識して今後も取り組んでいきたいです☺
【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



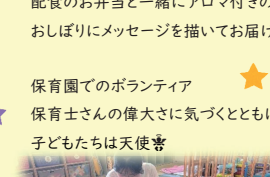
★ 配食のお弁当と一緒にアロマ付きのおしぼりにメッセージを描いてお届け



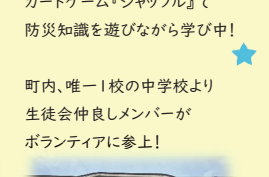
★ カードゲーム『シャッフル』で防災知識を遊びながら学び中！



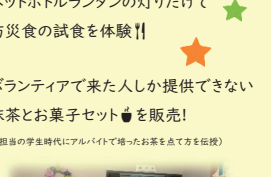
★ ペットボトルランタンの灯りだけで防災食の試食を体験！！



★ 保育園でのボランティア
保育士さんの偉大さに気づくとともに子どもたちは天使☆



★ 町内、唯一！校の中学校より生徒会仲良しメンバーがボランティアに参上！



★ ボランティアで来た人しか提供できない抹茶とお菓子セット♡を販売！
（V担当の学生時代にアルバイトで焼いたお菓子を店を方伝授）







【基本情報】

事業名	夏のボランティア体験プログラム2025		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年8月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	23人

【事業概要】

●プログラム内容 ・デイサービスの利用者と交流 ・誰もが集えるリビングでのお茶出し、交流 ・子ども食堂での調理、配膳、見守り ・保育のお手伝い ・イベントの準備受付 ・作業所の利用者と一緒に作業、交流 ・環境保全活動		●協力団体 ・デイサービスほっと久米田 ・リビングほしかおか・ピープルスマイル久米田 ・認定こども園五風会・ボカポーキッチン ・あゆみ作業所・よっといで盆踊り ・ボランティアフェスティバル・ブナ愛樹クラブ
●目的・ねらい ・市内の様々な活動を知ってもらうこと、そしてボランティア活動は特別なことでも難しいことでもないことを感じてもらう。		●実施場所（名称） ・デイサービスほっと久米田 ・福祉総合センター・府営荒木住宅集会所 ・認定こども園五風会 ・ピープルスマイル久米田・あゆみ作業所 ・中央公園・和泉葛城山
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ・登録ボランティアグループや子どもの居場所等へプログラム提供依頼を配布 ・施設連絡会の会議でプログラム提供依頼 ・プログラムを取りまとめ、チラシ作成及びボランティアだよりの紙面作り ・7月から申込開始、随時調整 ・8月1日～9月30日に実施		●事業規模 （予算：4万円） 【内訳】 チラシ製作費
●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 市内小中学校、高等学校へ配布 市民センター・公民館へ配架		☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（ボランティアだより） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） できるだけコロナ流行前と同じ状況に戻す		
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 特になし、コロナ前と同じことを進めた		
*これまでの体プロと異なる工夫 特になし、コロナ前と同じことを進めた		
●ボランティア保険	☐ ボランティア活動保険	☐ 社協が加入 ☒ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

できるだけコロナ前と同じ状況に戻す、特別なことはしない

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * ブナの木が身近にあったことを知れてよかった。 * 優しく指導して下さいました。 * いろんなボランティア活動を知れてよかった。
●協力団体の声（抜粋） * 久しぶりのボランティア受け入れでしたが、子どもたちも喜び、またボランティアに参加してくれた方にも、子どもと触れ合う楽しさを実感頂き、次年度以降も継続したいと思います。 * とても楽しんでくれ、子どもたちも大喜びでした。掃除や片付けも積極的にしてくれ大変助かりました。将来、保育の道ではない方を選ばれたようでしたが、また機会があれば来たいと言ってくれ良かったです。
●取り組みの成果、効果 施設連絡会に出向き協力依頼したことで、プログラムのバリエーションが増えた。 すべてのプログラムに参加があったわけではないが、施設等のボランティア受け入れの再開への流れになったと思う。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 親子での参加が昨年より増えた。もっと親子参加しやすいプログラムを探していきたい。

【活動風景】各画像にかんたん説明（キャプション）をつけてください。



デイサービスで利用者と一緒に体操

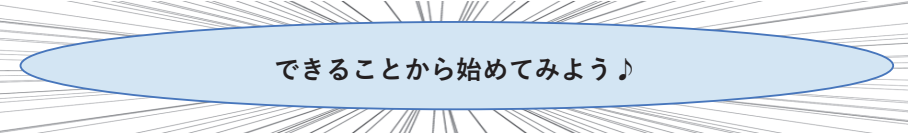
【基本情報】

事業名	令和7年度 ボランティア体験プログラム		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	5人

【事業概要】

●プログラム内容 ・日常生活への参加 ・レクリエーション活動の手伝い ・夏祭りイベント ・施設利用者とのふれあい ・作業時の手伝い ・遊び、プールの付き添い ・夏ならではのテーマ活動 ・身のまわりの世話		●協力団体 ・泉大津みなと会　みなと・ワークさつき ・泉大津みなと会　カモメ・みらいずこども園 ・南海かもめ認定こども園・ワークショップ　かりん ・特別養護老人ホーム　美休 ・児童養護施設　和泉乳児院、和泉幼児院 ・ローズガーデン泉南苑 ●実施場所（名称） ・各施設 ・もんとパーク ・泉大津中央商店街　風街	
●目的・ねらい 市民が気軽にボランティア活動に参加できる機会を提供し、ボランティア活動への興味・関心を深める。		●事業規模 （予算：　1　万円） 【内訳】 ・コピー用紙 ・色上質紙	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ・4月 例年の協力施設の状況・受入れ状況の把握 ・5月 市内で受入れ施設へ協力依頼をし、プログラムを作成 ・7月 ちらし作成、広報誌・ホームページ記載		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生から社会人まで地域住民の方 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（　　） ☒ その他（Googleフォーム　　）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） 最初の一步を踏み出しやすい場を作ること大切にしました。ボランティアに興味があってもどこに行けばいいのかわからない、きっかけがない・・・そんな声に対して普段はかわりがない団体や活動に触れられる”出会いの場”を用意することにこだわりました。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 高齢者施設での体験プログラムをふやした。 *これまでの体プロと異なる工夫 だれでも参加しやすいプログラムの内容を考えた。			
●ボランティア保険	（ ボランティア活動 ） 保険	☐ 社協が加入	☒ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * ボランティア活動そのものが初めてだったので少し疲れてしまう事があったが、初めてだったからこそ多くの学びがあった。 * 新聞を読むことで、今後、利用者とのコミュニケーションや自分の知識や語彙力の向上に取り組みたい。 * 障がいを抱えている方に適切な対応をするために、一人一人をよく理解する必要がある。 * できることは継続してやっていこうと思います。
●協力団体の声（抜粋） * ボランティア活動を始めるきっかけになってくれたらうれしく思う。 * またこのような企画があれば協力したい。
●取り組みの成果、効果 はじめて当事者の方々と交流した方に関して、体験終了後ボランティアに興味を持っていただきボランティア活動を始めるきっかけにはなったと感じる。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） ・居場所カフェでは異なる年代、立場の市民が協働して活動することで、地域での愛着やつながりが生まれる場となった。ボランティア活動の持つ「交流の場」としての価値を改めて実感した。 ・子供向け、働き世代向け、シニア向けなど層別に楽しめる体験内容も検討し誰もが気軽に参加できる仕組みを考えたい。 ・今年度、本事業の周知については地域内ネットワークを活用しきれず、アプローチが十分ではなかった。その結果参加者数の伸びにつながらなかったように思うので、既存のつながりをもっと活かすひつようがある。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



もんとパーク ラジオ体操・居場所カフェ

誰でも参加できるラジオ体操を月1回、不定期で喫茶も一緒に開催している。



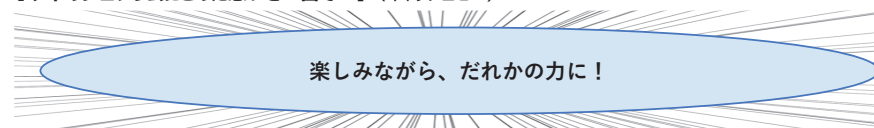
【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム2025～ちょこっと体験してみませんか？～		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☐ 児童 ☐ 保育 ☐ 地域福祉 ☒ その他（市民イベント）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	52人

【事業概要】

●プログラム内容 ・ポッチャスクール、ポッチャ大会 (内容)運営に関わる補助。ポッチャを通じて、参加者と一緒に交流。またアイスブレイクなどを実施、場の盛り上げ隊員 ・りんくう公園清掃活動～with 大阪公立大学生～ (内容)大阪公立大学生の皆さんと、りんくう公園清掃の活動 ・高齢者施設での夏祭りイベント (内容)学生対象。夏祭り気分で楽しめる体験型ゲームの企画・実施 ・赤い羽根共同募金 街頭募金 (内容)赤い羽根共同募金の街頭募金、広報 ・福祉施設での活動（高齢・障がい） (内容)利用者とお話し相手やレクリエーション補助など ・ボランティアグループの活動 (内容)市内ボランティアグループ活動の体験	●協力団体 ・大阪体育大学 ・泉州ポッチャクラブ ・市内小中学校 ・大阪公立大学 ・福祉施設 ・ボランティアグループ
●目的・ねらい ボランティア活動を身近に楽しく体験することで、活動への興味や関心を高めてもらう。将来的なボランティア活動の担い手につながるきっかけとする	●実施場所（名称） ・りんくう公園 ・福祉施設 ・いこらも～（赤い羽根共同募金） ・J:COM末広体育館
●事業規模 （予算：3万円） 【内訳】 ・ボランティア活動助成金	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ・小学生以上 ☒ チラシ・ポスター作成 市内小中高등학교や大学に案内 ☒ HPやインターネットを活用 HPやInstagram ☒ 広報誌（社協だより、さのらんまん） ☐ その他（ ）
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月：体験プログラム実施に向けて、受入協力施設・団体へ呼びかけ 6月：体験プログラムのチラシを作成 作成後、公共施設や各団体等にチラシ配布・掲示依頼 7月：校長会にて案内。各市内小中学校に掲示の協力依頼 受付開始 8月：体験プログラム スタート 体験終了次第、振り返りを実施 11月：体験プログラム 終了	
●こだわりポイント（担当者としての想い） 「難しそう」より「やってみたい」と思ってもらえるよう、楽しく取り組める体験内容を意識して企画しました。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 大学側で実施している活動に体験プログラムに位置付けて参加させていただきました。年齢の近い方との関わりが生まれ、安心感のある雰囲気の中、初めての方でも参加しやすいプログラムとなりました。	
*これまでの体プロと異なる工夫 活動のハードルを下げ、年齢が近い体験者同士で活動できるプログラムや雰囲気づくりを行いました。 「難しそう」「大変そう」というイメージを持たせないよう工夫しました。	
●ボランティア保険	（ ボランティア活動 ）保険
☐ 社協が加入	☒ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 普段できないような体験で楽しかったです。話すのが苦手だけどたくさんの人と話すことができて嬉しかった * 楽しくボランティア活動ができた。またボランティアします！！ * 泉佐野市内でたくさんのボランティア活動があることを知った * 同世代の人と一緒にだったので、緊張せず楽しく活動ができた * ボランティアって、誰かのためだけでなく、自分自身の学びにもなると感じました
●協力団体の声（抜粋） * ボランティアさんが参加してくれることで、利用者や施設職員を含め事業所の活気に繋がった * 若い世代が来てくれることで、場の雰囲気明るくなった * 「孫がきてくれたみたい」「若い人と話せて元気が出る」といった声が入居者様から聞かれた * 学生さん自身が活動を楽しんでいる様子が、場全体に良い影響を与えている
●取り組みの成果、効果 体験者がボランティア活動を身近に感じ、関心を高めるきっかけとなったと感じます。実際に体験することで、「難しそう」というイメージが和らぎ、楽しみながら学べる活動であるという理解につながったと思います。「自分自身の学びとなった」といった声もあり、自己成長にもつながる学びの場であることを実感する機会となりました。さらに、若い世代の参加により、受入れ施設・団体からは「場の雰囲気が明るくなった」といった評価があり、福祉の担い手不足という課題への一歩に繋がったように感じます。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 昨年度と比べ、体験プログラムの内容は充実し、実施数も増加しました。多くの団体・施設の皆さまにご協力いただき、受入れの準備を進めていただいていた一方で、広報面が十分に行き届かず、体験者が集まらなかったプログラムもありました。今後、より多くの方に情報が届くよう、広報方法や発信の工夫に一層力を入れていく必要があると感じています。また、体験者数が増えたことにより、これまで大切にしていた一人ひとりの振り返りの時間を十分に確保することが難しくなっていると感じています。体験を通して得た気づきや学びを次につなげていくためにも、後は振り返りの方法や機会の持ち方について検討していくことが課題です。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。

今年のプログラムの様子

皆さん、楽しく活動できたと伝えてくれて嬉しかったです。若い力が加わり、現場や担当者にも良い刺激をもらっています。

【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム 2025 in 和泉市		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☒ その他（環境・イベントサポート）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	75人

【事業概要】

●プログラム内容 花植え、草抜き、水やりなど花壇の整備 イベントサポート ももやまキッズランド（イベント準備、片付け、子どもの遊び相手） 夏休み親子ふれあいイベント（準備、片付け、子どもの遊び相手） まちセミ・IZUMI（準備、片付け、受付、会場案内） ボランティアフェスタ（準備、片付け、着ぐるみアクター等） 小・中学校の福祉体験学習のサポート 生活介護施設の日常プログラムの見守り等 子ども食堂のお手伝い コーヒーサロンのお手伝い	●協力団体 ・花植え・花守り隊 ・福祉体験グループ ・まちセミ・IZUMI実行委員会 ・生活介護福祉施設 ・「アイ・あいロビー」運営委員会、他
●目的・ねらい ボランティアを通して、社会参加へのきっかけづくり、人との出会い・つながりの場として、体験プログラムを提供	●実施場所（名称） ・和泉中央駅前花壇 ・市内小・中学校 ・エコール・いずみ ・和泉市立青少年の家（横尾山） ・「アイ・あいロビー」、他
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 4月：プログラム内容の検討 5月～協力団体や施設へ呼びかけ 広報（チラシ作成、ホームページ掲載） 7月：広報誌、SNSにて、参加者向けの広報 随時実施 11/30：全プログラム終了 アンケートの整理	●事業規模 （予算：6万円） 【内訳】 助成金4、市助成金2 ●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 子どもから大人まで ☒ チラシ・ポスター作成 公共施設・大学 ☒ HPやインターネットを活用 HPやSNS（LINE、facebook、Insta） ☒ 広報誌（市の広報誌） 社協やVCの情報誌 ☒ その他（グループLINE） 大学の活動支援室登録者への配信
●こだわりポイント（担当者としての想い） さまざまな活動希望者の要望に対応できるよう、ひとりで気軽にできること、友だちや親子で一緒に楽しくできること、しっかり福祉を勉強できることなど、選択肢をたくさん用意しました。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 今年は、「ボランティアの受け入れ団体」のチラシを作成し、福祉施設や関係機関への呼びかけを積極的に実施し、ボランティアの活動分野を広げました。 *これまでの体プロと異なる工夫 活動希望者はもちろん、その他にもイベントや講座の際にもチラシなどで参加の呼びかけを実施しました	
●ボランティア保険 （ボランティア・市民活動行事）保険	☒ 社協が加入
	☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

「何かしたい」「でも何をしたら？」というあなたへ
 まずは、体験してみよう！誰でも、気軽に、楽しくボランティア。

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊花植えに比べて草抜きや水遣りは地味な活動だと思いましたが、花壇いっぱい咲いた花を見たら達成感があった ＊みんなに楽しんでもらえるお手伝いが出来て楽しかったし、半分は自分も参加できてたくさんの人と出会えた ＊年代の違う人たちが一緒になって、一つの目的に向かって活動していることに少し感動した。 ＊私の一言一行を学ぶようとしている子どもたちを見て身が引き締まった。自分にとっての学びのエネルギーになった ＊あなたはあなたのできることで子どもに接してくれたら良いのよ。と言われ、もっと自分探しをしてみたくなった
●協力団体の声（抜粋） ＊職員がなかなか定着しない職場ですが、体験を通して一人でも多くの人に福祉の現場を知ってもらえるのが嬉しい ＊最初は不安そうでしたが、少し声を掛けて説明したら、一生懸命取り組んでくれました。 ＊ボランティアさんと一緒にイベントを実施することで、新しい発見があり、自分たちの見直しの機会にもなった ＊遊んでくれる人、叱ってくれる人、黙々と作業をする人...いろんな人がいることを子どもに気づいてもらえた ＊学生がたくさん参加してくれると、他のボランティアさんの刺激にもなり、イベント全体が盛り上がりました
●取り組みの成果、効果 昨年に引き続き手続きを簡素化してことや、受入施設や団体への募集チラシを作って積極的に呼びかけて、プログラムの種類をふやしたことで、参加者が増えたと思います。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 手続きの簡素化で参加者は増えたが、アンケートの回収率が悪かったので、体験後の状況があまり把握できていない。体験談や活動写真は、これからボランティアをしようと考えている人にとっても強い影響力を持っていると思うので、来年は、アンケートの回収方法についても見直しを検討します

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



イベントサポートボランティア
 フィナーレはみんなで総踊り
 すいちゃんの中もボランティアさん



駅前花壇の花の植え替え
 和泉市の玄関がきれいになりました！

ももやまキッズランド
 （大学生と地域の子育てボラン
 ティアさん）

小学校（福祉学習）
 サポート



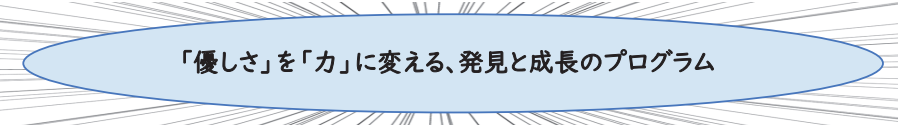
【基本情報】

事業名	チャレボラ2025		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☒ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年9月30日	延べ参加人数	114人

【事業概要】

●プログラム内容 『導入研修』～たのしいだけじゃダメですか～ 『思いやりを形にする』 点訳・音訳・手話の体験 『温もりと活気を届ける交流』 老人福祉センター3苑で、イベント運営ボランティア体験 『できることから始める温かい社会貢献』 手作りプレゼント製作、日常生活の困りごと支援等の体験 『心を寄せ合う優しさ』 障がい者作業所での軽作業のお手伝い体験 『小さな手から、大きなエネルギーをもう交流』 認定こども園4園での保育補助体験 『まちの“温かい居場所”を支える、地域デビュー』 社協内の交流スペース“たねまき”でのカフェ運営体験	●協力団体 ・高石市福祉施設連絡会 ・社会福祉法人温友会 ・社会福祉法人南海福祉事業会 ・社会福祉法人浜寺会 ・高石市コミュニティセンター ・老人福祉センターさくじゅえん・手話サークルまつぼくり ・老人福祉センターけいすいえん・音訳ボランティアひさご会 ・パチャーター ・あそびの工房もくもく屋 ・高石市ボランティア連絡会 ・町の便利屋さん ・点訳グループ ・ハンドメイドクラブ ・傾聴ボランティアグループスガ ・横聴サークルまつぼくり
●目的・ねらい 様々な「心と心のふれあい」の場を体験し、地域で共に生きる温かさを感じること。 そして、参加者自身の優しい気持ちと「できること」を見つけ、一歩踏み出すきっかけを作ること。	●実施場所（名称） ・第2いずみ通所センター ・東羽衣こども園 ・南海愛児園 ・羽衣保育園 ・たかいし保育園 ・老人福祉センターすいしょうえん ・老人福祉センターけいすいえん ・老人福祉センターけいすいえん ・ボランティア・市民活動センター ・市役所別館1階たねまきスペース ・高石市役所内
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 6月・各機関への体験プログラムへの協力依頼 ・プログラム作成 ・チラシ・ポスター作成 7月・社協より7月号にて募集記事を掲載 ・市内外の小、中、高、専門学校、大学等にチラシ配布及び周知 ・受付開始（Googleフォームより受付） ・各受け入れ機関との参加者の受け入れ日時調整 ・参加者へのボランティア体験決定通知書をメールにて送付 ・チャレボラオリエンテーションを皮切りにプログラムスタート ・プログラム修了者には随時ボランティア活動証明書を発行 9月・体験プログラム終了	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生以上 ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（社協より7月号） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 参加者が安心して活動を始められるよう、多様な分野の体験を丁寧に組み入れ、内容を拡充いたしました。 これにより、参加者一人ひとりが戸惑うことなく充実した一日を過ごし、それぞれの関心に合った活動を見つかることで、今回の体験が次のボランティア活動への大切な一歩となってほしい想いで調整しました。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 今年度より、従来のプログラムを再開するにあたり、内容のさらなる充実を図りました。認定こども園や障がい者作業所など、多くの関係機関に温かいご協力をいただき、参加者が様々な分野から体験を選べるよう企画をいたしました。 *これまでの体プロと異なる工夫 多岐にわたる分野の機関にご協力をいただき、幅広い体験の選択肢をご用意いたしました。これにより、参加者一人ひとりの関心や適性に合った活動を選べるよう配慮しております。初めてボランティアに参加される方が不安を感じることなく、ご自身の『得意なこと』や『やってみたいこと』から無理なく一歩を踏み出し、活動を継続するきっかけとなるようなプログラムを企画しました。	
●ボランティア保険 （ボランティア活動）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * たくさんの人たちとの交流をして、感謝してもらうことを改めて知る事ができた。初めてのボランティアでしたが、ずっと楽しくてボランティア活動をもっとしたいと心から思った。 * 「ボランティア」というのは今までよく聞いていたけど実際やることは今までなくて、今回初めてさせてもらって、こんなに素晴らしい体験、色んな感情に出会うことができた。 * 自分自身の可能性が広がったと感じ、とても良い経験を得る事ができたので、これからも参加させていただきたいです。
●協力団体の声（抜粋） * 次世代を担う方や興味がある方への体験プログラムは、これからの福祉を支える意味でも意義があるように感じた。 * 普段かかわりのないボランティアさんとの関わりは、障がいを持っている利用者にとって良い刺激であり機会であったと思う。 * 皆さん、積極的に取り組んでくださり、私たちもやりがいがありました。 * この体験を通じて、活動に興味を持てただけの事が良かったです。また、入会もしていただく事になり良かったです。 * ボランティアさんの、取り組みへの真摯な姿、礼儀正しい所は我々が勉強になりました。今後も機会があれば共にできればと思う。
●取り組みの成果、効果 今年度も、小学生から一般の方々まで、幅広い世代の皆様にご参加いただきました。特に、小学生の熱心で楽しそうな様子、そして高校生・大学生の真剣ながらも元気あふれる取り組みは、参加者や職員に大きな活力を与えてくれました。また、一般参加者の方々が、この体験を新たな出会いのきっかけとし、様々なボランティア活動へと興味を広げ、現在も活躍されていることは、本プログラムにとって何よりの喜びであり、貴重な成果であると認識しております。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 今回のプログラムでは、幅広い世代の皆様が心から楽しんでご参加くださり、継続的な活動へと繋がる大きな喜びをいただきました。ただ、一部で受け入れ機関への無断欠席が発生したことは、私たちが真摯に反省し、参加者への丁寧なサポートを見直す大切な気づきとなりました。今後は、連絡方法をより分かりやすくすることで、参加者の皆様への、きめ細やかなサポートに力を入れてまいります。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



【基本情報】

事業名	みんなの居場所づくり		
活動分野	☒ 高齢者 ☐ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☐ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	29人

【事業概要】

●プログラム内容 *子どもたちへのボランティア ・宿題をしよう①②（小学生の学習支援） ・工作（コースター作り） ・大きい部屋で遊ぼう ・お楽しみ時間（風鈴作り） ・高齢者を知ろう（体験を通して学ぶ） *高齢者へのボランティア ・スマホ教室（スマホの使い方を伝授する）	●協力団体 ・登録ボランティアグループ 紙芝居「拍子木」 ・子ども食堂「ゆり」 ●実施場所（名称） 泉南市総合福祉センター あいびあ泉南 3階 団体活動室2 ・1階 大会議室
●目的・ねらい ボランティアは自ら動く活動であるため、異なる世代の人々とふれ合うことで他者の立場や気持ちに寄り添う姿勢を育むことを目指しました。	●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】 保険料 1800円、部屋代等 18790円 材料費 5393円、雑費 3190円
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 5月 ・泉南社協事業計画「みんなの居場所づくりniccot」の活動の中に、ボランティア体験ができるプログラムを取り入れる。 6月 ・ボランティアグループに依頼 ・予定を考えチラシを作る（8月開催）／学校にチラシを配布 ・HPやInstagramにて告知する 7月 ・申込み開始 ・準備物を購入 8月 ・実施、報告	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学生から大学・専門学生、一般まで全て ☒ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☐ 広報誌（ ） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） 小学生に向けたボランティアでは、学生だからこそできる寄り添い方を意識し、明るく親しみやすい雰囲気づくりを心がけました。活動の中で得た経験や気づきは、すべて前向きに受け止め、これからの自分の成長や次の活動につなげていきたいと考えています。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 活動を通じて、子どもたちが得意なことを増やし、小さな喜びを大きな自信につなげていくサポートをしたいと強く感じました。 今後はこの経験を活かし、年齢層を問わずさまざまな人と交流しながら、地域とのつながりを広げる活動にも積極的に取り組んでいきたいと思います。 *これまでの体プロと異なる工夫 意識したことは、「初めて参加する人にも分かりやすく、楽しく体験できるようにすること」です。 そのために説明資料を作成したり、細かい作業に各自チャレンジしてもらう時間を多く設けたりしました。	
●ボランティア保険	☒ ボランティア・市民活動行事）保険 ☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

ボランティアでしか見えない“学び”がある！

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 子どもたちというんな体験をして会話が増えて楽しかった。 * 最初は少し不安でしたが、皆さまにとっても優しく対応して頂けて、楽しめることができました。 * たくさん子どもたちと楽しくふれあうことができて、とても良い体験になりました。 * スマホ教室では、知らない事も知ることができた。子どもたちとのやり取りの中で笑顔が見られて良かったです。 * 率先して行動できるようになった。これからもボランティア活動に参加したい。
●協力団体の声（抜粋） * 連続して参加される方が多くて、子どもたちが場と環境に慣れていてよかった。 * 申し込みの際、送り迎えや食事に関するアレルギーなどの詳細を事前に確認していたので、スムーズに対応できた。 * 昼食の時間もとても楽しく過ごしました。黄色と赤色のスライスを当てるゲームをみんなでしながら、一緒に食べられて、子ども食堂の皆さんの温かい配慮に心から感謝しています。 * 学生以外の方々も、子どもたちと寄り添いながらもづくりや運動を楽しんでいました。
●取り組みの成果、効果 学生自身にとっては、子どもにわかりやすく伝える工夫を通してコミュニケーション力が高まり、小学生にとっては、年齢の近いお兄さん・お姉さんの存在が、安心して学び・工作に取り組むきっかけとなり、学ぶことへの前向きな気持ちが育ちました。異なる年齢層が協力することで、地域のつながりが深まり、何より若い世代が「人のために動く」経験をすることで、社会への参加意識が育つ貴重な機会となりました。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 小学生の「できた！」という瞬間や、ボランティア活動に参加された方の「これからも元気に社会と関わっていきたい！」という笑顔を見て、強いやりがいを感じることができました。一方で、時間配分や説明が長すぎて子どもたちの集中力が切れてしまう場面もありました。次回は、伝え方を工夫し、相手の理解度や興味をより引き出せる方法を課題としています。また、年齢や性格の異なる子どもたちと接する中で、柔軟なコミュニケーションの重要性を改めて実感しました。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



★手作りコースター作成



★宿題をしている様子



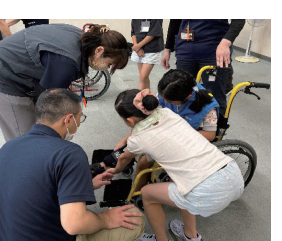
★大きな部屋で身体を動かそう



★スマホ教室



★風鈴づくり



★高齢者を知ろう

【基本情報】

事業名	夏休みボランティアDAY2025		
活動分野	☒ 高齢者 ☒ 障がい者 ☒ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☒ その他（事前説明会）		
実施期間	令和7年7月30日～令和7年8月18日	延べ参加人数	28人

【事業概要】

●プログラム内容 1. 事前説明会 ボランティア活動での心構えや気を付けることを学ぼう。各コースの詳細も伝える。 2. 地域住民の憩いの場のお手伝い 「ほのぼのカフェ」に参加してカフェやかき氷を作って一緒に盛り上げよう！ 3. 漁港にある「みんなの食堂」のお手伝い 毎月1回ボランティアさんが実施している「みんなの食堂」 4. 高齢者施設での夏イベントのお手伝い 高齢者施設を利用する高齢者の方々と一緒に夏まつりを盛り上げよう！ 5. 障がい者施設で普段している軽作業のお手伝い 就労継続支援B型事業所に通われている利用者の方々と一緒に交流	●協力団体 ・尾崎校区 福島地区福祉委員会 ・株式会社漁師鮮度 ・社会福祉法人さくら ・社会福祉法人ほけっと福祉会 ●実施場所（名称） ・阪南市地域交流館 3階共用会議室3・4 ・尾崎鉄筋住宅 ・西鳥取漁港 ・ショートステイさくら ・ワークセンターほけっと
●目的・ねらい 学生の頃から、様々なボランティア活動に参加し、貴重な体験ができ、地域の活動者と出会い、ボランティア活動の魅力に触れることで、自分自身の中での「ボランティア」をもっと身近に感じてもらう自己有用感を高めるきっかけを作ってもらうため。	●事業規模（予算：4万円） 【内訳】 令和7年度ボランティア体験プログラム助成金 4万円
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） ・4月～5月 体験コースの内容検討、受け入れ先への調整 ・5月中旬 チラシ作成 ・7月 阪南市内の小・中学校校長会にて広報SNSにて周知 ・7月～8月 体験コース実施	●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 小学5年生～大学、専門学生、その他家族など ■ チラシ・ポスター作成 ■ HPやインターネットを活用 ☐ 広報誌（ ） ■ その他 （教育委員会の協力のもと全小・中学校へ配布）
●ごだわりポイント（担当者としての想い） 阪南市内の学生が主体的に地元の地域福祉活動にふれてほしい。 地域の活動者の「将来、福祉、地域の担い手になってほしい」という声の高まりに対してできることをしたい。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など ＊新たな取り組みとして 新たなテーマの設定「多様な人々が、多様な場所で、ボランティア活動ができるように」。 プログラムの多様化。チラシの一新。活動終了後にも継続したつながりを持てるよう情報提供をおこなう。 ＊これまでの体プロと異なる工夫 担当者間でこれまでの取組みを振り返り、じっくり意見交換をおこなうことを大切にしたい。 最終回におこなっていた全体の振り返り会を、各活動終了後に、活動者の方々と一緒におこなうことにした。	
●ボランティア保険	（ボランティア・市民活動行事）保険 ■ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

わくわくドキドキとおきの夏にしよう

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） * 楽しかった。来年もボランティアに参加したい！色々な方と関わることができ良い経験になりました。（中学生） * 自分が盛り上がる事で、まわりの方も盛り上がる事を学んだ。次のボランティアでは笑顔で接する事を意識したい。（大学生） * 地域の幅広い世代での交流は、とても温かい空気感で緊張していたけど色々な方が話しかけてくれて楽しかったです。（中学生） * 様々な年代や立場の人と触れ合えてその人、一人一人の立場に立って物事を考えることを大切にしたい（専門学生） * ボランティア活動中は参加者同士楽しく過ごすことを大切にしたい（小学生）	●協力団体の声（抜粋） * 若い学生が来てくれることで高齢者の皆さんが嬉しそうで良かったです。来年も是非来て欲しい。 * 細かいことに気がついてくれて助かった～。 * 暑い中、頑張ってくれてありがとう。学生のみんなからパワーをたくさんもらいました！来年も待ってるで～。 * 活動終了後、引き続きボランティアしたいと相談があった。来月から来てくれることになったありがたい。 *
●取り組みの成果、効果 今年度は「多様な人々が、多様な場所で、ボランティア活動ができるように」というテーマのもと体験コースを多様化し、チラシを一新しました。その結果、小学生から大学生まで幅広い年代の学生や、今回の活動では、車イスユーザーの学生も参加されました。テーマに沿った活動ができたことを実感しています。	
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 参加した学生から「チラシを見て、気軽に参加できると思った」という声があり、チラシの見せ方ひとつで参加につながることに気づかされた。プログラムを絞り出会う回数を増やすことで学生同士の仲間意識もでき、結果、緊張がほぐれ、「自分もみんなも楽しめるように！」という意識が芽生えるなど、活動を通じての成長が見られた。関係性の継続：受け入れ先から「来年もぜひ！」という声が寄せられており、単発のイベントで終わらないよう、関係性を継続していく工夫が必要。	

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



地域住民の憩いの場のお手伝い



漁港にある「みんなの食堂」でのお手伝い



障がい施設での交流



高齢施設での夏イベントのお手伝い



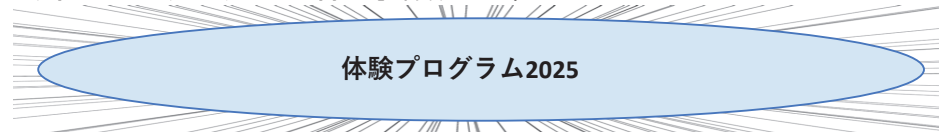
【基本情報】

事業名	体験ボランティア		
活動分野	☒ 高齢者 ☐ 障がい者 ☒ 児 童 ☐ 保 育 ☐ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日 ～ 令和7年11月30日	延べ参加人数	1 人

【事業概要】

●プログラム内容 ・ 買い物支援事業手伝い ・ 子ども食堂手伝い ・ ちょこっとボランティア		●協力団体	
		●実施場所（名称） ・ 町内スーパー ・ 子ども食堂	
●目的・ねらい 地域福祉活動にボランティア体験を組み合わせ、実際のボランティア活動を通し、地域資源の理解や、これからの新たな地域福祉の担い手育成を行う。		●事業規模 （予算： 4 万円） 【内訳】	
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 体験プログラム啓発用のチラシ作成。 各イベントの際にボランティア体験プログラムについて説明。 申込のあった方より、どのボランティアプログラムに参加してみたいか尋ね、参加いただけるイベントについて概要をお伝える。		●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 ボランティア活動をしてみたい方 ☒ チラシ・ポスター作成 ☐ HPやインターネットを活用 ☐ 広報誌（ ） ☐ その他（ ）	
●こだわりポイント（担当者としての想い） ボランティア活動への関心が薄く、なかなかボランティア募集をかけても集まらない。少しでもボランティアについて関心をもって頂けるよう、各分野のボランティア活動のプログラムを組み込む。			
●今年度の新たな取り組みや工夫など * 新たな取り組みとして 地域住民が集まるイベントの際に、啓発チラシの配布と、体験プログラム概要について説明を行った。			
*これまでの体プロと異なる工夫			
●ボランティア保険		（ ボランティア活動 ） 保険 ☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入	

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）



【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 地域で困った方の手伝いができて良かった。 ＊ いつ自分が困るかわからないから、困ったときは助けてほしい。
●協力団体の声（抜粋） ＊ 手伝ってくれて助かったな。
●取り組みの成果、効果 直後の成果について得られるものは少ないが、今後も活動を続けていくことで、成果や効果が生まれてくると思う。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 昨年度に引き続き、申し込みの人数が少なかった。 日頃からのボランティア活動への関心を惹けるような仕組み作りをしていく必要があると感じた。

【活動風景】各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



ひとり暮らし高齢者また高齢者のみ世帯等で買い物など生活上不便を感じ、高齢者施設等に入居せず、在宅で生活できる方に対し買い物の手伝いを実施する事業でのボランティア体験の様子。

【基本情報】

事業名	ボランティア体験プログラム		
活動分野	☐ 高齢者 ☐ 障がい者 ☐ 児童 ☐ 保育 ☒ 地域福祉 ☐ その他（ ）		
実施期間	令和7年7月1日～令和7年11月30日	延べ参加人数	159人

【事業概要】

●プログラム内容 ①ボランティアフェスティバル （内容）手話体験・点訳体験・バルーンアート体験 活動発表（手話ダンス・手話歌・歌体操 ・手話「東京デフリンピック」知っていますか？） ②ボランティア入門講座「バルーンアート入門講座」 （内容）初心者向けのバルーンアート講座 第1回：バルーンアートの基礎 第2回：バルーンアートでキャラクター作成等		●協力団体 ・ボランティア連絡会 ・熊取町図書館
●目的・ねらい 【ボランティアフェスティバル】…ボランティア体験をしてもらい、活動している方とも交流を持って頂く。 【ボランティア入門講座】ボランティア依頼の多かったバルーンアート作成に携わるボランティアの養成を目的とする		●実施場所（名称） ①熊取町図書館 ②熊取いきいきセンター
●実施にいたるまでのプロセス（準備から終了まで） 2月 ボランティア連絡会にボランティアフェスティバルの参加協力依頼 5月 町広報誌・図書館だよりにて、ボランティアフェスティバルの開催案内 ボランティアフェスティバルの開催 5月 ボランティア講座の講師依頼 7月 社協広報誌・広告掲示にてボランティア講座の参加者募集 ボランティア講座の開催 体験プログラムの終了		●事業規模 （予算： 5 万円） 【内訳】 ・講師謝礼、消耗品費 等 ●広報について（対象者、方法、ツール等） 【対象者】 一般町民 ☒ チラシ・ポスター作成 ☐ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌（ボランティア情報くまどり） ☐ その他（ ）
●こだわりポイント（担当者としての想い） ※R7年度ボランティア体験プログラムでの担当者の想いや、こだわったポイントについて、 例年通り、参加者が興味を持つと考えたプログラムの提供、協力依頼を行い、参加者募集方法も同様にした。		
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして ボランティア体験と講座をセットにし、継続してボランティアに関わる工夫を行った *これまでの体プロと異なる工夫 特別、工夫は行っていない。		
●ボランティア保険	☐ ボランティア活動（ ）保険	☒ 社協が加入 ☐ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で！】（キャッチコピー）

ふれあいや交流を通じてボランティアに興味を持ってもらう

【プログラムを振り返って】

●参加者の声（抜粋） ＊ 普段は子どもと接する機会が少ないため、一緒に体験ができて嬉しかった ＊ 障がいのある方と関わる機会がこれまでほとんど無かったが、実際にお話ししてみるととても気さくで、 ＊ 初対面とは思えないほど打ち解けることができた
●協力団体の声（抜粋） ＊ 活動を通して参加者の皆さんから元気をもらった ＊ 体験を通じて私たちの活動を知ってもらうことができ、大変嬉しかった
ボランティア体験を通して、多くの地域の方にボランティア活動を知っていただく良い機会となりました。 ボランティア団体の皆さんにとっても、活動への意欲が高まるきっかけになったと感じています。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと（新たな発見、反省点等） 本事業を通じ、直ちに具体的なボランティア活動へ結び付くものではないものの、参加者に対しボランティア意識の醸成を図る一助となったものと考えます。 バルーンアートについては、今後も定期的に集まりを開催し、グループ化につなげていきたいと考えています。 また、現状の広報手法のみでは体験希望者の確保が困難となりつつある状況を踏まえ、今後は新たな情報発信手法の導入等について検討し、より効果的な周知・参加促進につなげていく必要があると考えております。
【活動風景】 各画像にかんたんな説明（キャプション）をつけてください。



ボランティアフェスティバル（点訳体験）



手話「東京デフリンピック」知っていますか？



ボランティア入門講座



ボランティア入門講座 様子

【基本情報】

事業名	2025 ボランティア体験プログラム		
活動分野	■高齢者 ■障がい者 ■児童 ■保育 ■地域福祉 ■その他（ 里山管理・保全 ）		
実施期間	令和7年7月1日 ～ 令和7年11月30日	延べ参加人数	13 人

【事業概要】

●プログラム内容 ①里山大作戦!!岬町の大自然を体験!! ②うみもり大作戦!! …里山管理・保全 ③喫茶たまり場 ④ぼちぼち喫茶 ⑤ふれあい喫茶 ⑥みはま喫茶 ⑦喫茶めだか組 ⑧おーぶんかふえ ほほえみ …地域福祉(131ニティカ71) ⑨ほのほのサロン …障がい者(精神保健福祉サロン) ⑩みさきのわ…障がい者・高齢者(サロン) ⑪カハハしたる⑫テウアなざさ 入居者とのレクリエーション …高齢者(施設での支援) ⑬週末の学習活動支援…障がい者(施設でのお手伝い) ⑭利用者の就労支援 …障がい者(お仕事のサポート) ⑮あそぼと⑯子どもバザール ⑰子育て支援センターのボランティア …児童・保育 ⑱みさき地域活動“発表会”～地域福祉共育実践プレゼンテーション～ …地域福祉 (赤い羽根共同募金の仕組みや各学校と地区福祉委員会、社協が協働で取り組んでいる活動発表を中心とした助成金の活用報告)	●協力団体 ①みさき里山クラブ ②うみへの森を育てる会 ③④淡輪地区福祉委員会 ⑤⑥深日地区福祉委員会 ⑦多奈川地区福祉委員会⑧精神保健福祉ボランティア ほのほのみさき ⑨岬町介護者(家族)の会ほほえみ⑩みさきのわ ⑪⑫ケアハウスほたる・デイケアなざさ ⑬知的障害者総合福祉施設 愛の家「きぼう」 ⑭愛の家「工房みさき」 ⑮⑯岬子育てネットワーク⑰岬町立子育て支援センター
●目的・ねらい 子どもから社会人、高齢者など、誰もがボランティア活動のプログラムに参加し、さまざまな人々とふれあいの中から、自分以外の他者や社会について関心と共感を持ち、「ともに生きる」豊かな心を学び、広く福祉への理解を深めることを目的とする。また、「ボランティアのきっかけづくり」から発展させ、ボランティア活動の継続や定着、地域に根ざした活動を推進させるような取り組みを実施するよう、福祉共育を意識した事前・事後学習にも重点を置く。	●実施場所(名称) ①孝子の森 ②せんなん里海公園 ③～⑥⑩各地区福祉委員会の活動拠点 ⑨⑰岬町社会福祉協議会 ⑪⑫ケアハウスほたる ⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺ 「工房みさき」 ⑮⑯岬町立子育て支援センター
●実施にいたるまでのプロセス(準備から終了まで) ①4月～6月：協力団体と話し合い、現状のボランティア活動の状況確認や今年度のボランティア体験プログラムの取組の方向性、協力可否確認。 ②6月～7月：協力団体へ依頼。岬町教育委員会より「令和7年度小・中学校初任者、10年経験者教員研修に係る社会体験研修の受入」依頼あり ③7月：広報紙「社協みさき」にて周知。 7月：新任教員(2年目)へ刈込研修を実施。岬町教育委員会を通じて10年目教員へ「福祉共育実践プレゼンテーション」の周知。ボランティア体験プログラムの周知。 ④8月：新任教員(2年目)ボランティア体験プログラムの実施。地域福祉共育実践プレゼンテーション開催し、教員(2年目)参加 ⑤11月：全プログラム終了(独自で令和7年3月31日まで実施予定)	●事業規模 (予算： 2.5 万円) 【内訳】 共同募金配分金 ●広報について(対象者、方法、ツール等) 【対象者】 小学生から大学・専門学生、一般まで全て ☐ チラシ・ポスター作成 ☒ HPやインターネットを活用 ☒ 広報誌(広報紙「社協みさき」) ☒ その他(口コミ、岬町教育委員会)
●こだわりポイント(担当者としての想い) 各関係団体・機関とプログラムの内容等を協議することで、昨年度よりプログラム数や内容を充実することができた。	
●今年度の新たな取り組みや工夫など *新たな取り組みとして 昨年度のボランティア体験プログラムの内容ふまえて、各関係機関・団体と協議することで、参加者の活動内容の充実を図った。 *これまでの体プロと異なる工夫 各関係機関・団体への依頼時に、昨年度のボランティア体験プログラムの内容を振り返り、今年度のプログラムの内容等について協議を行った。	
●ボランティア保険	(ボランティア活動) 保険
☐ 社協が加入	☒ 参加者が加入

【今年のプログラムにこめた想いを一言で!】(キャッチコピー)

共に学びあう担い手の育成

【プログラムを振り返って】

●参加者の声(抜粋) * 子どもと遊ぶだけでなく、保護者同士のつながりの場であるということに気づきました。子育てというのは、孤独に感じることも多いかなと思ったので、そんな保護者の方の心のよりどころとなる素敵な場所だと思いました。 * あまり幼児と関わった経験がなかったので、家庭科の授業でも教科書を教えるだけになっていたが、今回実際に幼児と関わって実体験を話すことができるようになるかなと思いました。 * 楽しかった。また来たいです。
●協力団体の声(抜粋) * 小学校・中学校の先生に、子育て支援センターの業務について知ってもらえたことと、子育て支援センターに来ていた子どもたちが、小学生・中学生になって、今どのようになっているのかをお聞きできてよかった。 * 小学校の先生に「あそぼと」の活動の目的等を知ってもらえる機会となつてよかった。 * 子どもたちが参加してくれる事で、また違った雰囲気になり良かった。また、参加してくれた子どもたちも楽しそうだった。
●取り組みの成果、効果 ・協力団体や参加者からプログラムを実施したことで、活動への意欲やボランティア活動の認識の向上につながった。 ・協力団体と丁寧な話し合いを行ったことで、連携・協働のしやすい環境づくりにつながり、ボランティア体験者の満足度の高いプログラムとなった。
●実施後の気づき、今後に活かしたいこと(新たな発見、反省点等) ・プログラムを通してつながりや楽しさ等目に見えないものの大切さが再認識され、より一層ボランティア体験者の受入が丁寧となり満足度の高いプログラムとなった。 ・ホームページを活用するなど周知広報に尽力したが、体験希望者が予想より少なかったため、来年度はより周知啓発に力を入れる必要がある。

【活動風景】各画像にかんたんな説明(キャプション)をつけてください。



「おーぶんかふえ ほほえみ」の活動



「あそぼと」の活動



「岬町立子育て支援センター」の活動